

茶筵儀則卷之四

ヲ多
635
4



78
635
4

茶筵儀則卷之四

濃茶手前大目立



一 水持大目立立座事——向茶筵先出座及て
 短鉢の初進の向中客を以て入目持の——は
 しれたる後少並極茶入の水持の茶入の茶
 入の先三分一を中へ隔ちて立寄る旨傳ふ
 但水持大目立は——客分多き目立の七
 リ九つと十一條進を細七尺形は十二目まで
 ありし重免角持を——たな手標を度し又
 水持と茶入との間の茶入は大小三層より女

心持遠く、難化理、清浄の旨有りて、遂に
 ことより、其の目も同し、陽明の旨、其の心を
 同くして、心持と兼入ると、此も如戒行の旨、其の
 心を、心持の旨、其の心を、心持の旨、其の心を、
 入持と兼入ると、此も如戒行の旨、其の心を、
 形も、心持の旨、其の心を、心持の旨、其の心を、
 心持と兼入ると、此も如戒行の旨、其の心を、
 又兼入の旨、其の心を、心持の旨、其の心を、
 心持と兼入ると、此も如戒行の旨、其の心を、
 心持と兼入ると、此も如戒行の旨、其の心を、
 心持と兼入ると、此も如戒行の旨、其の心を、



心を兼入ると、此も如戒行の旨、其の心を、

又兼入の旨、其の心を、心持の旨、其の心を、
 の旨、其の心を、心持の旨、其の心を、
 心持と兼入ると、此も如戒行の旨、其の心を、
 心を、心持の旨、其の心を、心持の旨、其の心を、
 心を、心持の旨、其の心を、心持の旨、其の心を、
 心を、心持の旨、其の心を、心持の旨、其の心を、

一 臨中、心持の旨、其の心を、心持の旨、其の心を、
 心を、心持の旨、其の心を、心持の旨、其の心を、
 心を、心持の旨、其の心を、心持の旨、其の心を、
 心を、心持の旨、其の心を、心持の旨、其の心を、

重相尼を事入る者大に河一水持とをなまそ有是
乃四申引分米の方向白六の移入前修りて短編
まよの而申を重 たれと事入る之六に在るを重くハる持と事
入るの如く申すを重くハる持と事入る
指 指 尼を事入る者大に河一水持とをなまそ有是
し又申すも 相持言市大の短編の心相持言市大の
言力方と之の短編を重くハる持と事入る
相持言市大の短編の心相持言市大の
其後相持言市大の短編の心相持言市大の

但け相持言市大の短編の心相持言市大の
同く相持言市大の短編の心相持言市大の

相持言市大の短編の心相持言市大の

又奈入相持言市大の短編の心相持言市大の
相持言市大の短編の心相持言市大の
相持言市大の短編の心相持言市大の
相持言市大の短編の心相持言市大の

一 相持言市大の短編の心相持言市大の
相持言市大の短編の心相持言市大の
相持言市大の短編の心相持言市大の
相持言市大の短編の心相持言市大の

しきとさるる茶入の口向より茶出さるは由りなき
ふしき御小茶を右より茶入の蓋を先たたく茶入茶
の折しとせしむ

但茶入の口向より茶出さるは由りなき
ちり古の茶氣存りて茶入の口右の大柄の
腹をゆきしむて舟より茶入の腹をゆきしむ
しむて舟より茶入の口をゆきしむて大柄の
腹をゆきしむて舟より茶入の口をゆきしむ
今ぬきしむて舟より茶入の口をゆきしむ
茶入の口をゆきしむて舟より茶入の口をゆきしむ

茶入

一 茶入の口向より茶出さるは由りなき
茶入の口をゆきしむて舟より茶入の口をゆきしむ
打折しむて茶入の蓋を先たたく
但茶入の口向より茶出さるは由りなき
とら茶入の口向より茶出さるは由りなき
又茶入の口向より茶出さるは由りなき
茶入の口をゆきしむて舟より茶入の口をゆきしむ
茶入の口をゆきしむて舟より茶入の口をゆきしむ
茶入の口をゆきしむて舟より茶入の口をゆきしむ

茶飲の遠慮をなす打松をんち茶飲の茶飲の
遠慮をなす打松をんち茶飲の茶飲の
茶も竹をんち又ふくまのち茶飲もぬきをん
の遠慮をなす打松をんち茶飲の茶飲の

一 柳枝をんち打松をんち茶飲の茶飲の
茶飲の茶飲の茶飲の茶飲の茶飲の

一 柳枝をんち湯の心を汲茶飲をんち茶飲をんち
茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち
茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち

但しきく柳の打松茶の種級をんち割の茶又いなり
割の茶又いなり

一 茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち
茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち
茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち

但しきく茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち
茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち

一 柳枝をんち茶飲をんち茶飲をんち茶飲をんち

又南島を拓かば、谷のあつし申さぬは、
重たきもの、實見多しの尤の角、
引てし流り流のく、然もゆ、
て拘束ありて、福の海、
く、き、
茶原とも、
お見はな、
り、
山、
と

主一のを解、
重年の茶原、
少年のく、
く、
お、
う、
交、
山、
ハ、

一、

一 此茶の湯の身もきくこと死し、ちをきくこと名湯
少水の茶碗の湯入、柄杓の茶碗をきく、ちを茶
碗の湯の湯、よる、のう、ちの湯を
茶碗の湯、一、二、三、柄杓

但天目茶碗、湯舟、ちの湯、の湯、の湯、
よ、世をきく、湯、よ、湯、の湯、
よ、世をきく、湯、よ、湯、の湯、
よ、世をきく、湯、よ、湯、の湯、
よ、世をきく、湯、よ、湯、の湯、

時、苦、よ、湯、の湯、
よ、世をきく、湯、よ、湯、の湯、
よ、世をきく、湯、よ、湯、の湯、
よ、世をきく、湯、よ、湯、の湯、
よ、世をきく、湯、よ、湯、の湯、

一 茶碗を通すの中、ちをきくこと、
湯、よ、湯、の湯、
湯、よ、湯、の湯、
湯、よ、湯、の湯、

望しきたるを法民政の千分の一にして筆硯少入
し〜〜〜筆硯少入を筆硯少入とて筆の少〜筆
筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入
筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入
筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入
筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入

筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入
筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入

筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入
筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入
筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入

一 筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入
筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入
筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入
筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入
筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入とて筆硯少入

さしたる後——たゞそと金の為しにありしを——
たゞそと——ゆゑに主なる水枯れぬといふゆゑに
一 正言及び其の言葉又信託の事柄——すもははかへず
と乞

一 正言後藏に在りし及貝と云ふ言を以て大以慰之
之六又以後を——たゞそと主又と云ふ力ありの
前も正言たる事候分の中へ——たゞそ
ゆゑに——きつと云ふ事なると主又と云ふと業
こゝにゆゑに——名はとぬ——何事に氣を——
梅原の事と主言——の事と云ふ——

予を懐く事や主入の金方と云々の事なり
主入の事なりと云ふ候——たゞそと云ふに
勝りしと云ふ事の中へ主

一 正言及中——たゞそと主入の事なり——たゞそと
懐く事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
正言及び其の言葉又信託の事柄
正言——たゞそと主入の事なりと云ふ事なり

但信託中相成りぬの所ありしと云ふ事なり
を史——たゞそと主入の事なりと云ふ事なり
後を史——たゞそと主入の事なりと云ふ事なり
何れも正言たる事なりと云ふ事なり

一 茶在之也。一 病りふくもさけ言能く如え
ふかしたるち病りふくもさけ言能く如え
見えてもくもさけ言能く如え
向てく病りふくもさけ言能く如え
量ぬくもさけ言能く如え

但及見ゆ。一 病りふくもさけ言能く如え
病りふくもさけ言能く如え
分ち種の通ふ也。一 病りふくもさけ言能く如え

一 木を病りふくもさけ言能く如え
病りふくもさけ言能く如え

白ひ山や。一 病りふくもさけ言能く如え
木を病りふくもさけ言能く如え
木を病りふくもさけ言能く如え
木を病りふくもさけ言能く如え
木を病りふくもさけ言能く如え
木を病りふくもさけ言能く如え
木を病りふくもさけ言能く如え
木を病りふくもさけ言能く如え
木を病りふくもさけ言能く如え
木を病りふくもさけ言能く如え

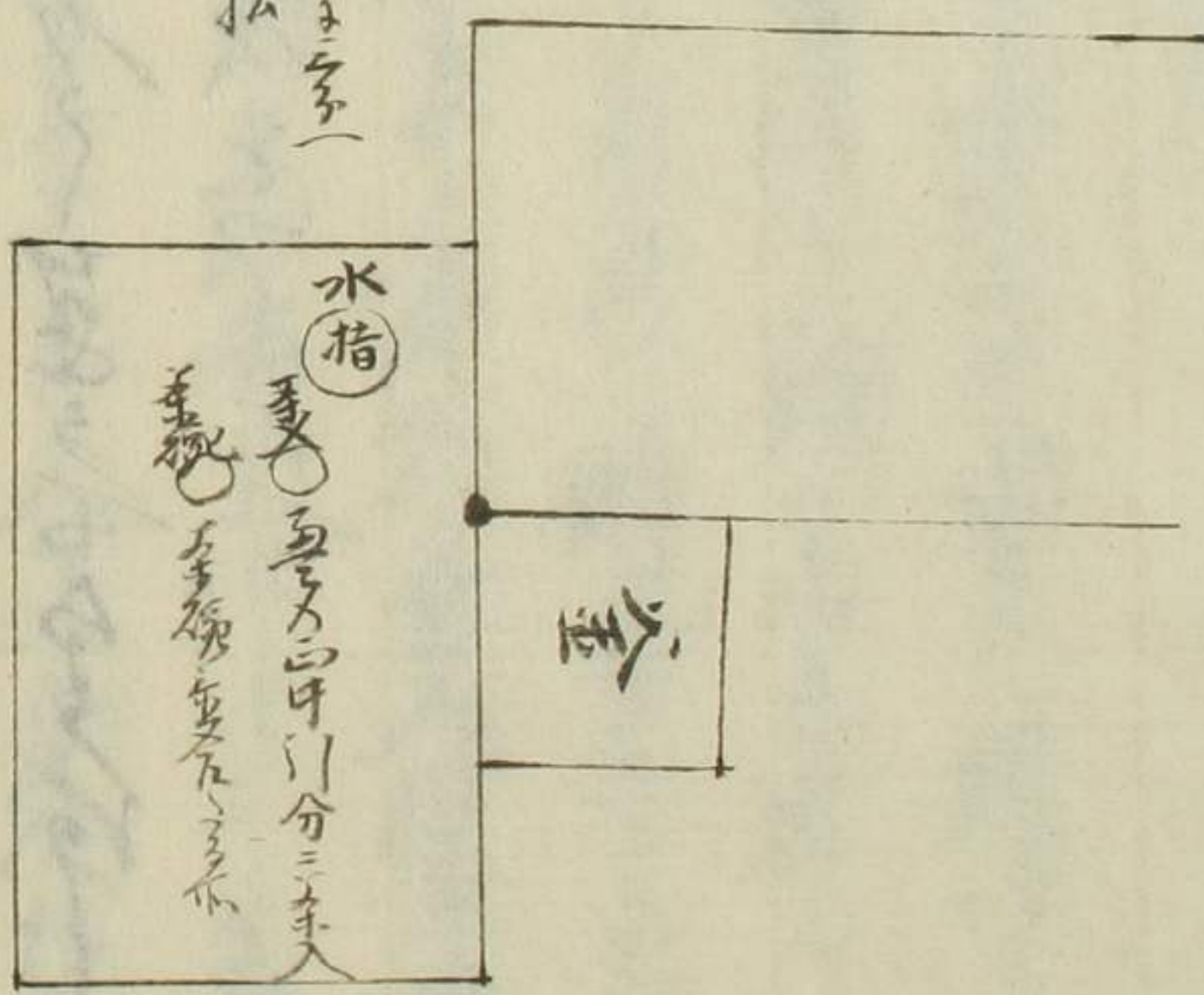
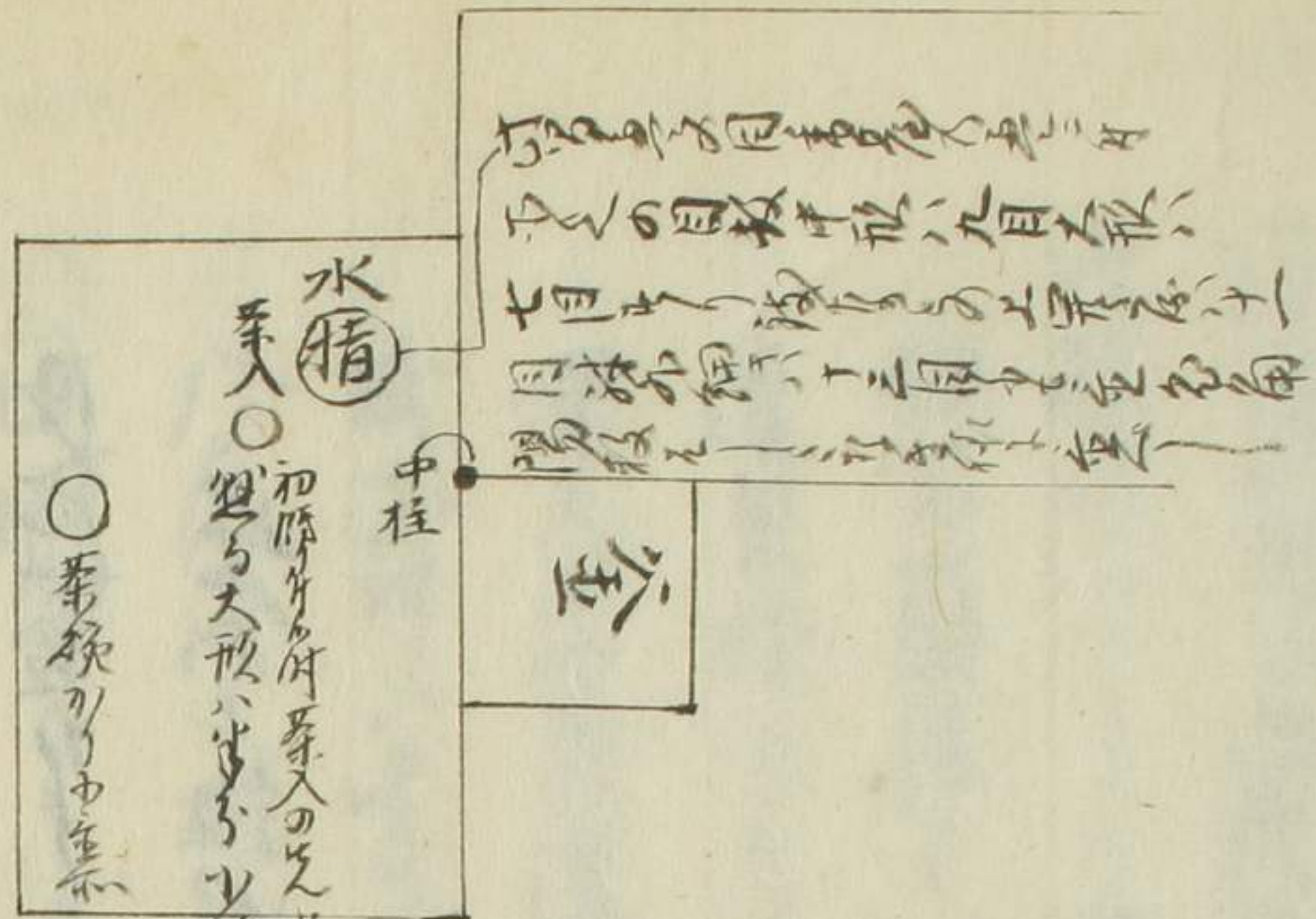
一 客道見見は。一 病りふくもさけ言能く如え
木を病りふくもさけ言能く如え

若くはありては後を待たぬ事
此の道を通りては後を待たぬ事
中接する事なり

但百箇法といふも或は中界の終りなり
道員探せば後を待たぬ事なり
常の事なる湯といふは終り則ち文の意なり
或は中界の終りなり或は中界の終りなり
此の終りなり或は中界の終りなり
今一は終りなり或は中界の終りなり
中接する事なり

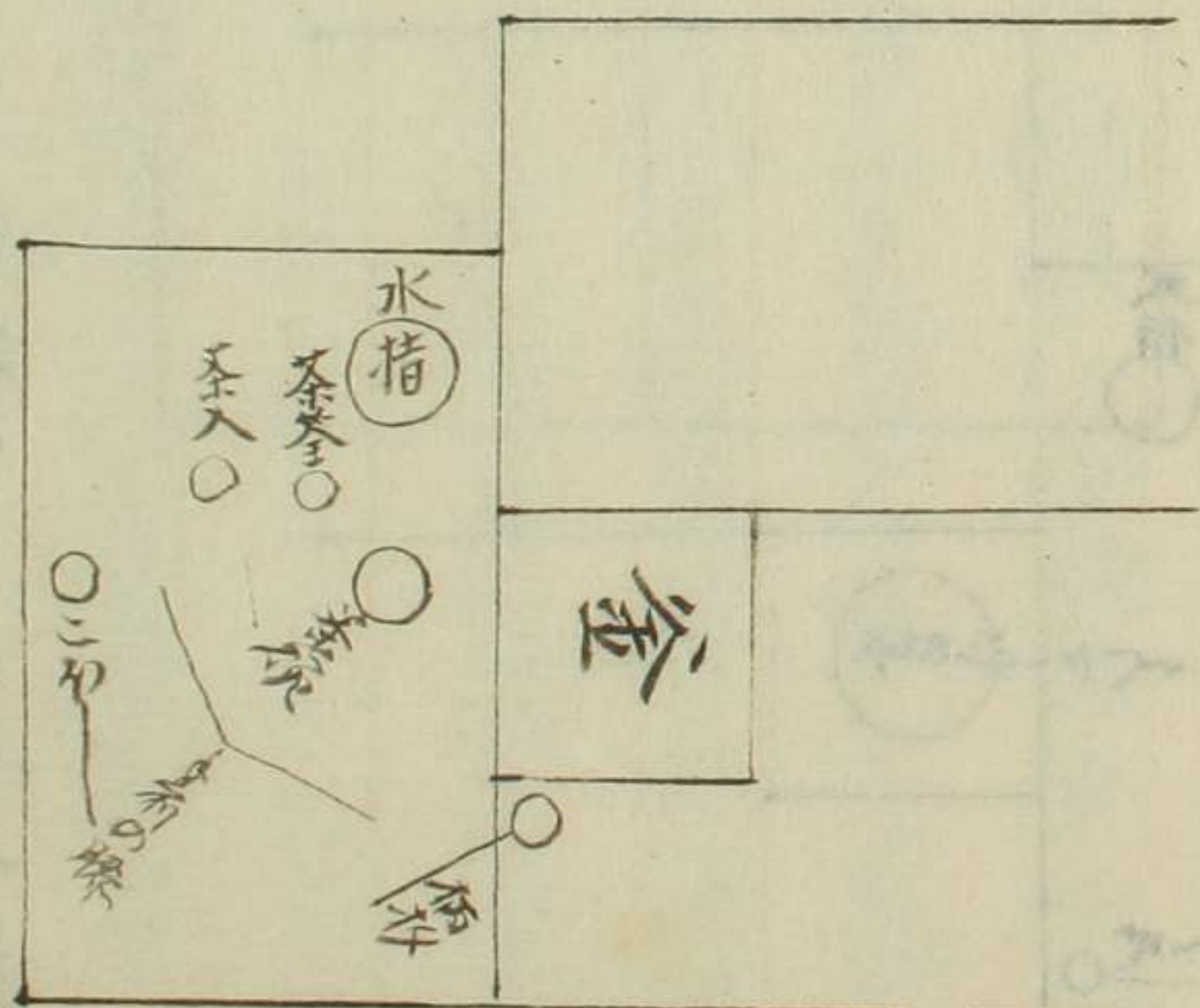
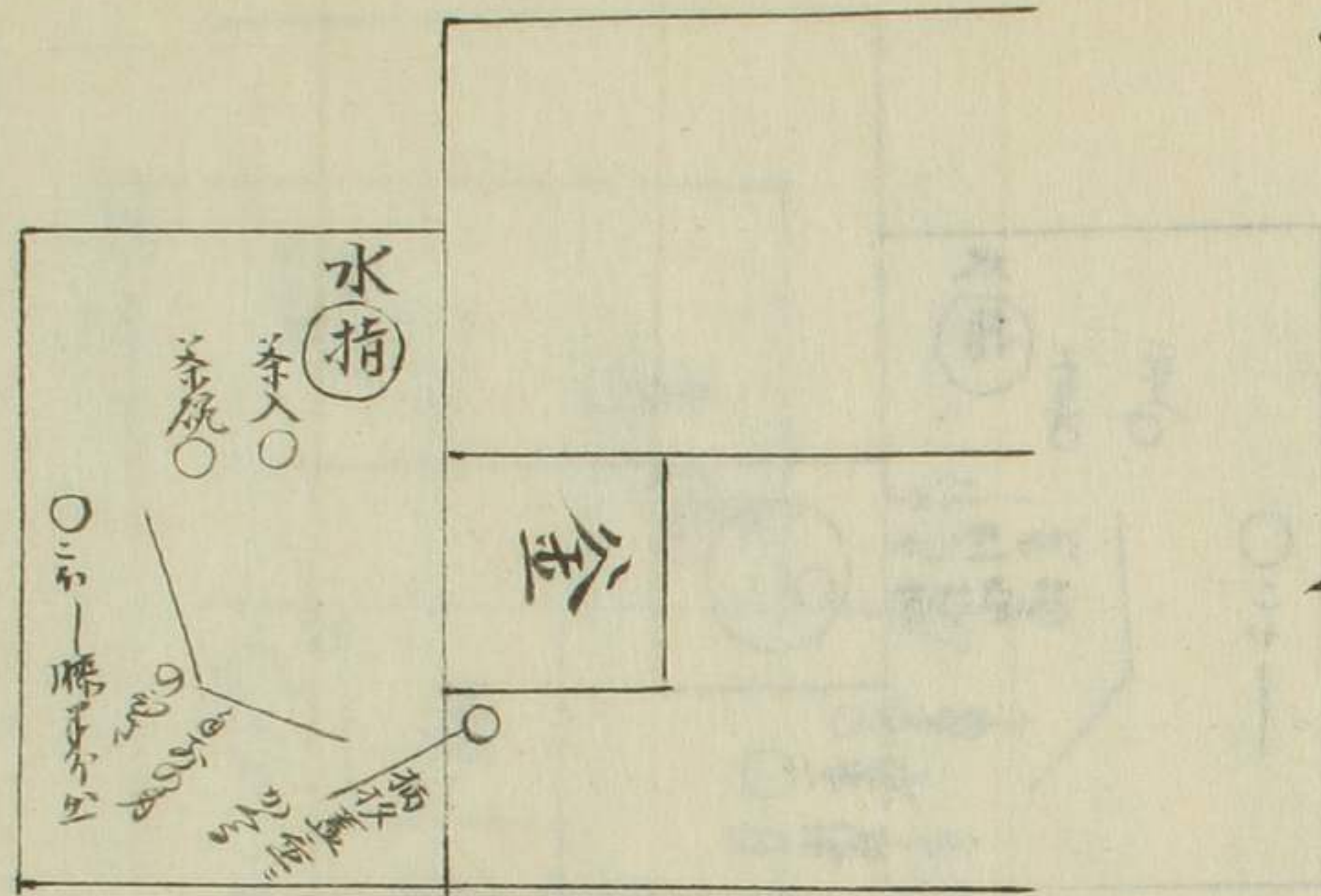
若くはありては後を待たぬ事
此の道を通りては後を待たぬ事
中接する事なり

濃茶大目立併付之儀

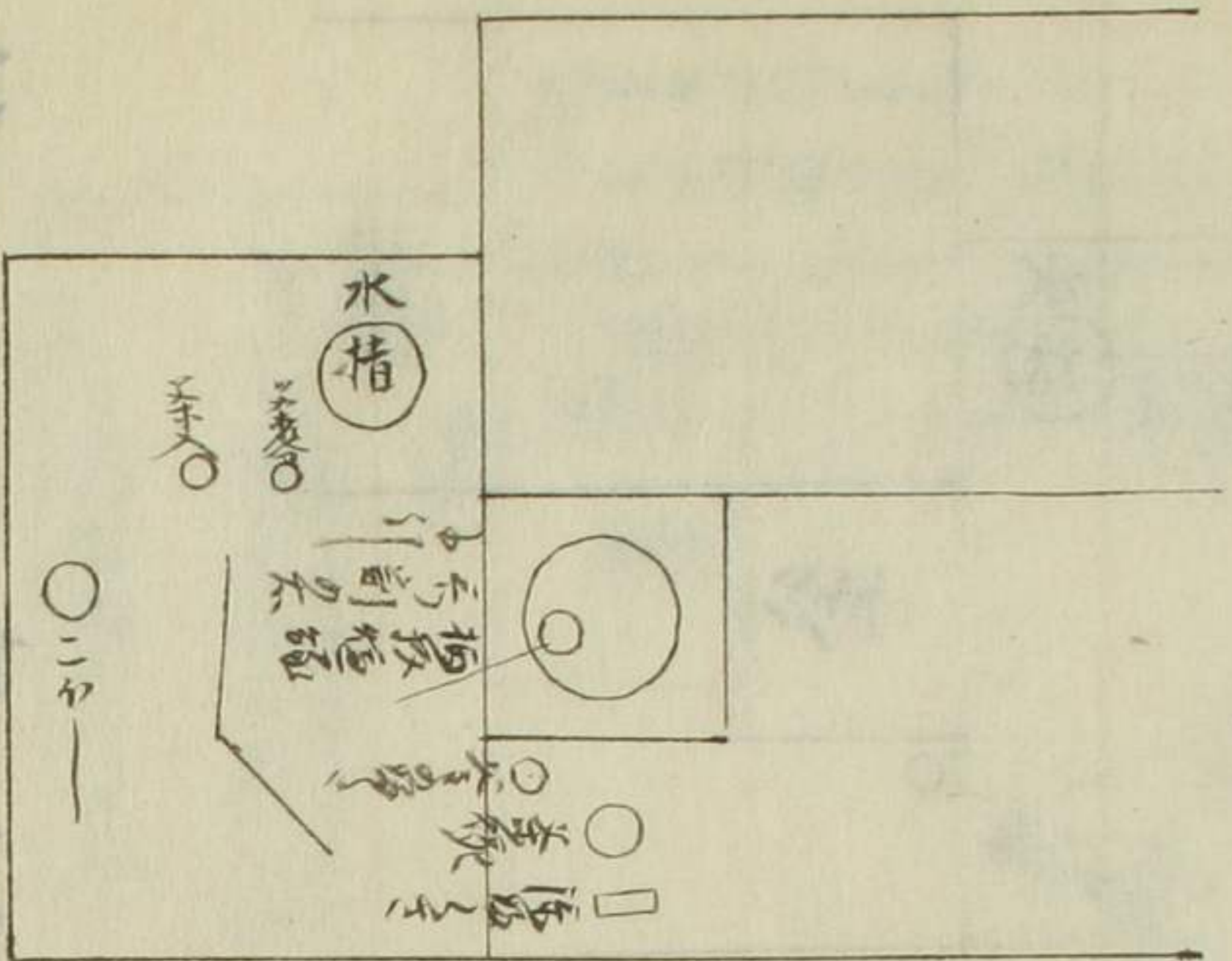


大目立の前小籠の儀

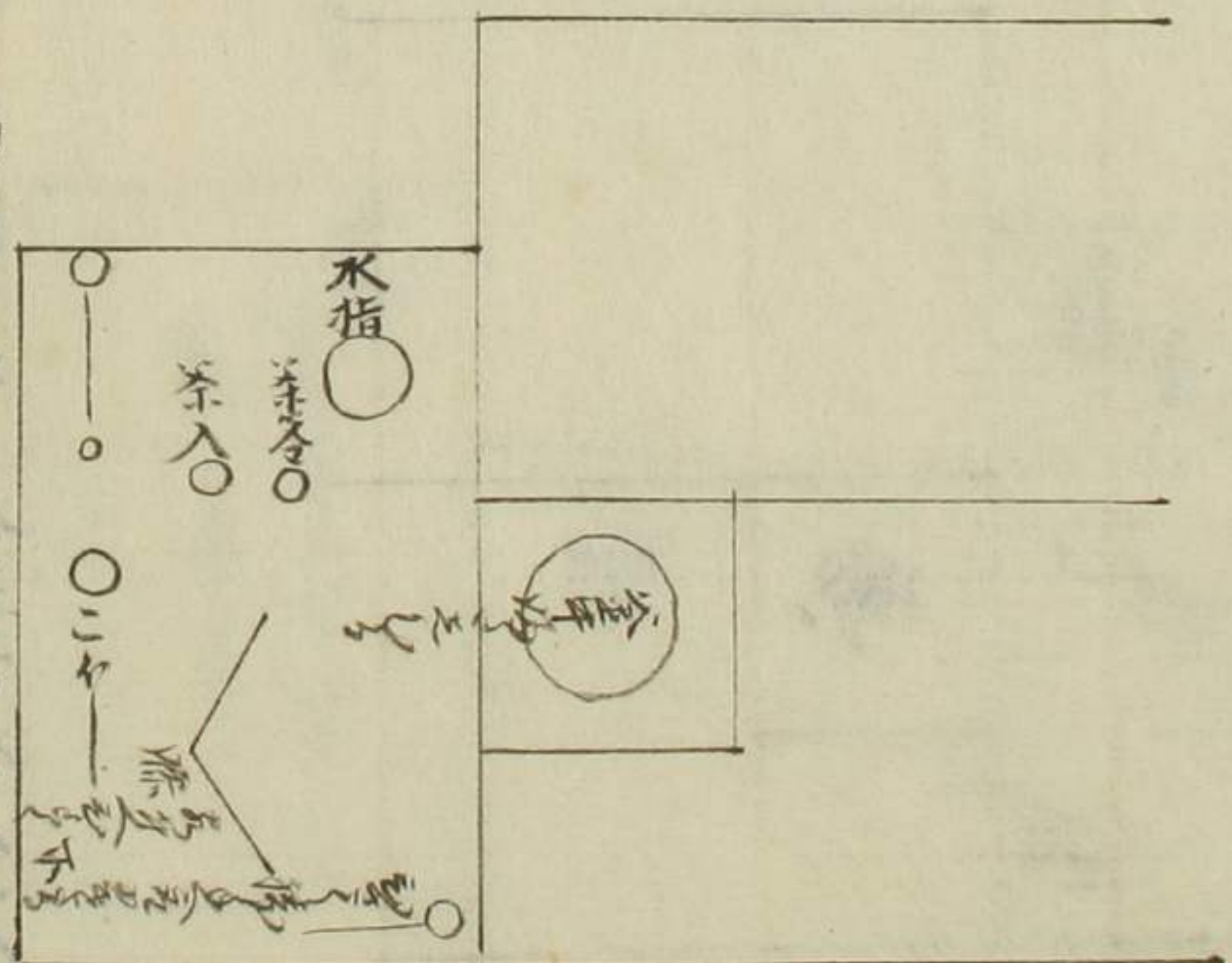
同茶入茶碗並合の儀



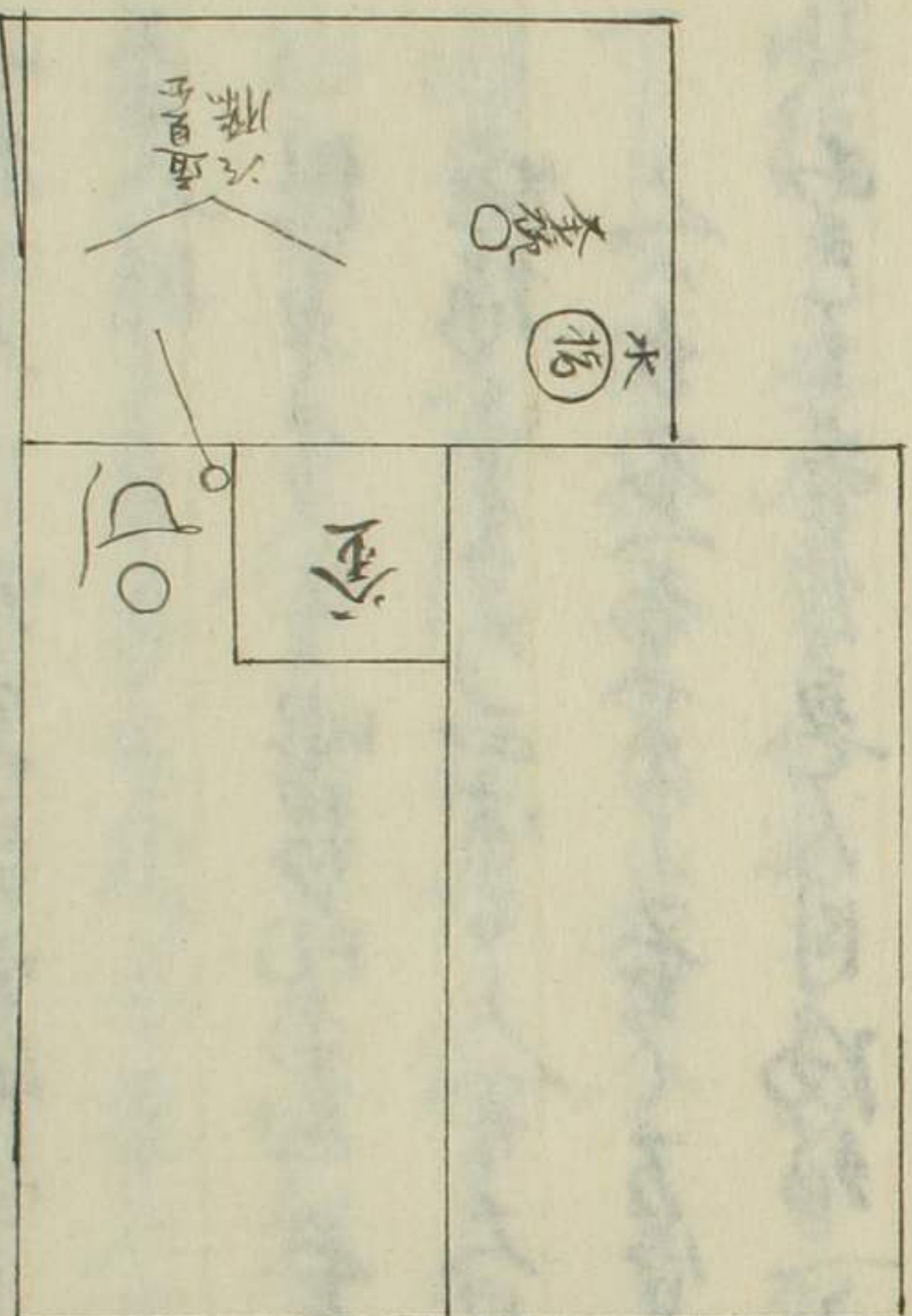
大目立茶立茶碗出の号 同柄取をるゝ小知茶 茶拂足 元の茶



柄取茶の号をるゝ茶付備茶をるゝ 茶付備茶をるゝ茶付備茶をるゝ



大目立客一道具出の号



かきくつがき

又此系を以て行はんとす入を下の星を自に湯敷
よをまゝ入のゆをくまゝをりて事申は事出せ
し平らに得し事申の得し

一 歸りて相違なきはくして事候たれは縁の
写ハ相違なきは出奉入の事よし相違なきは
たの事とはきりし相違なきはたの事たる事候
歸りて事候ふかりし事たる事入をれし相違
の名引ふた星たれと事候を事入のたを事
相違なきはたの事たる事候の事たる事候

一 口は内文ありて事候しはたは相違入候し
せきく相違し相違なきはたの事たる事候し
中向系と事候し相違なきはたの事たる事候
ゆの事たる事候し相違なきはたの事たる事候
下も事候しはたの事たる事候し

一 物に事候見事たる事候し相違なきはたの事
但縁のたの事たる事候しはたの事たる事候
割のたの事たる事候しはたの事たる事候

又巻のうへ大端の付、柘抄の巻付は、三行割に
割う。重又始、その柘抄の巻付は、右角三行割に
川割りの付、柘抄の巻付は、右角の付、
ゆ、重なる力を大端の巻付に、早急始の巻付
縁よかるし、柘抄の巻付に、

一 巻入候、一 巻入候、花の巻、表と上底
を向う、一 巻入候

一 柘抄の巻付、一 右角の付、柘抄の巻付、
右角の付、一 右角の付、柘抄の巻付、

一 巻入候、一 巻入候、中底の付、一 巻入候、
一 巻入候、一 巻入候、

右の角、左の角、柘抄の巻付を、巻入候、
右の角、左の角、柘抄の巻付を、巻入候、
右の角、左の角、柘抄の巻付を、巻入候、

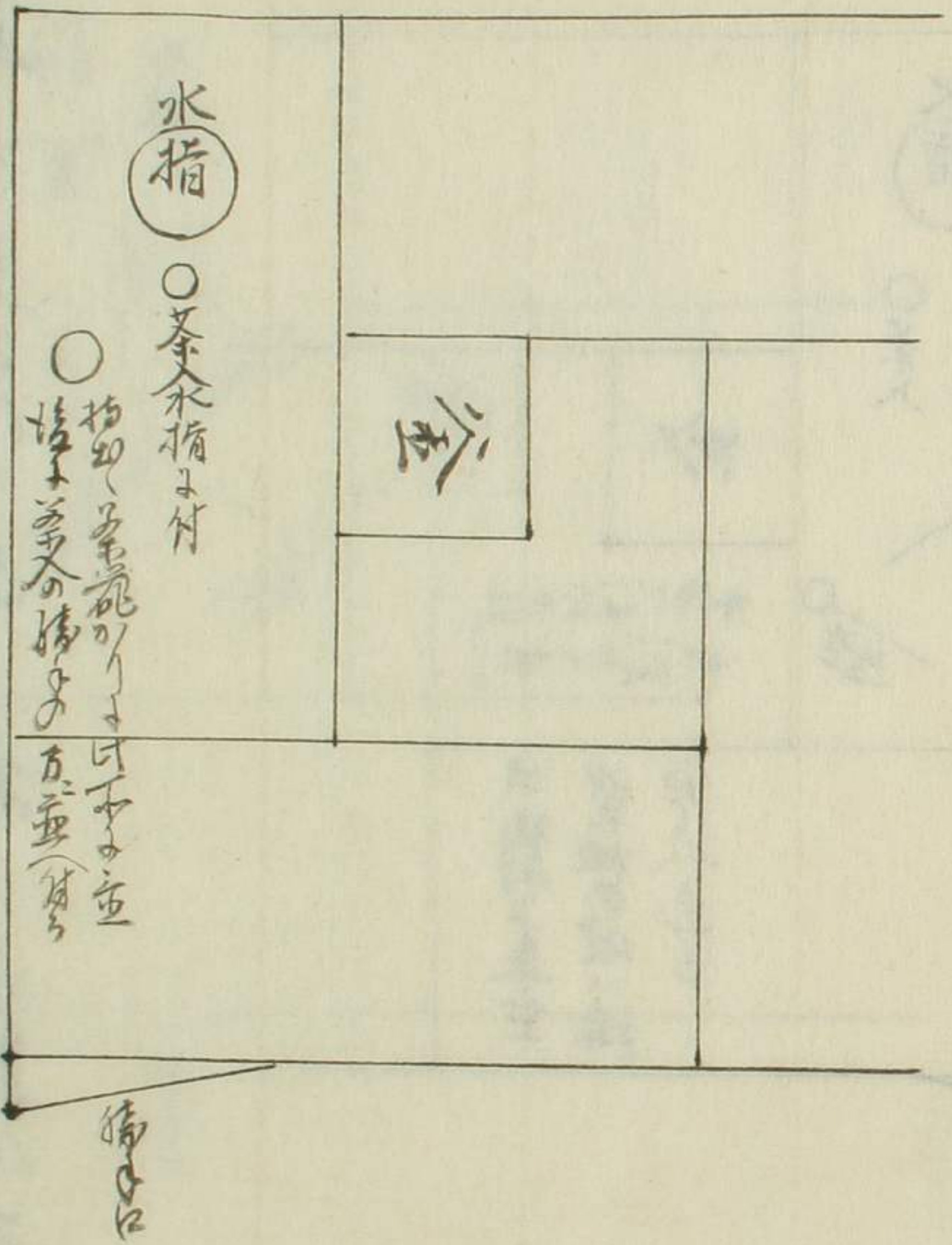
右の角、左の角、柘抄の巻付を、巻入候、
右の角、左の角、柘抄の巻付を、巻入候、
右の角、左の角、柘抄の巻付を、巻入候、

一 水指のゆへにその射角は遠くをうけて有るに
 依りて

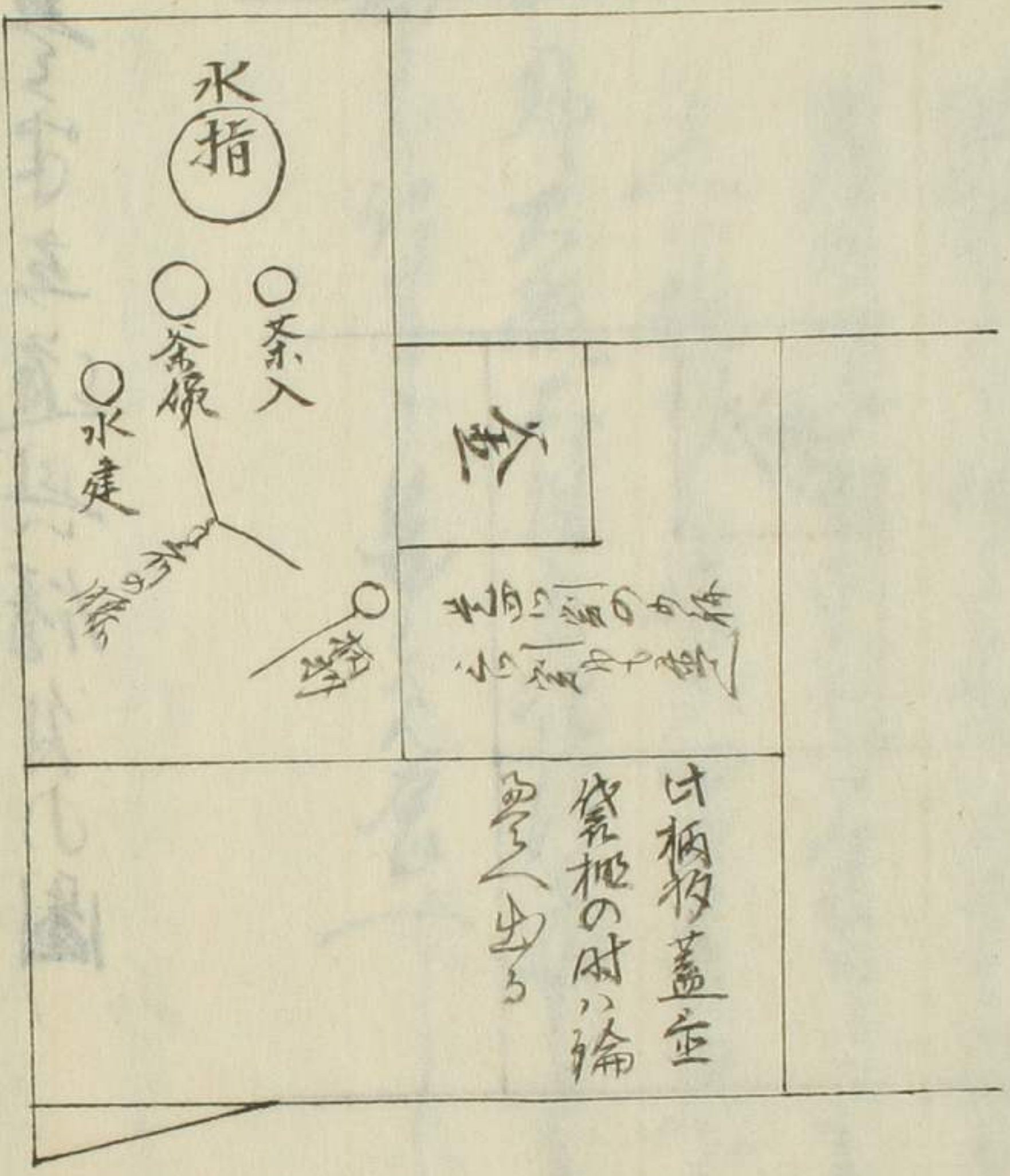
但しきくぬるをうけるを及見ゆるゆへ
 なる濃味はるるなりしに及んば

右舟左舷に目立ればはまはりのま
 あく記すはるるなりしに及んば

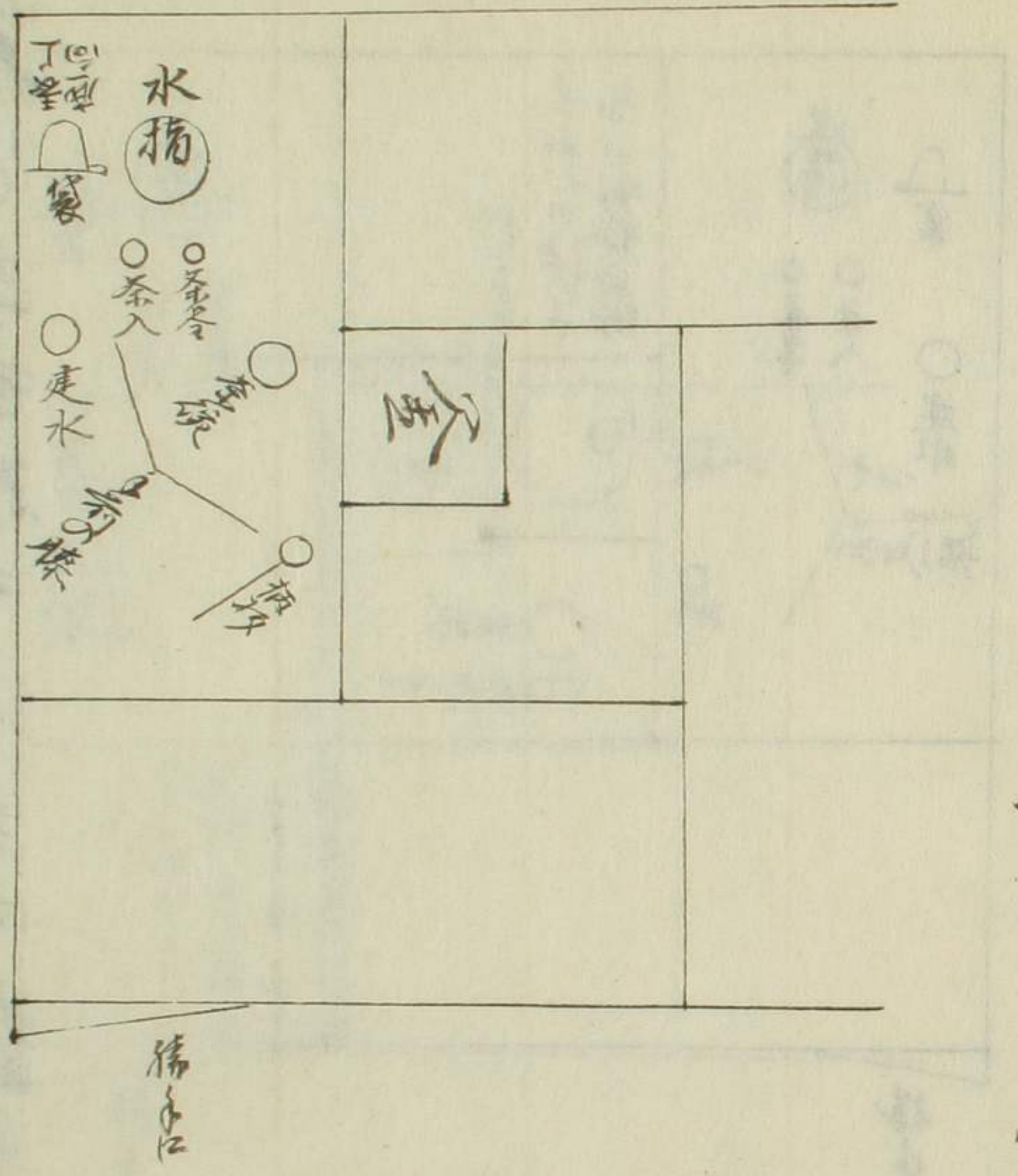
四角すま立道具修付の圖



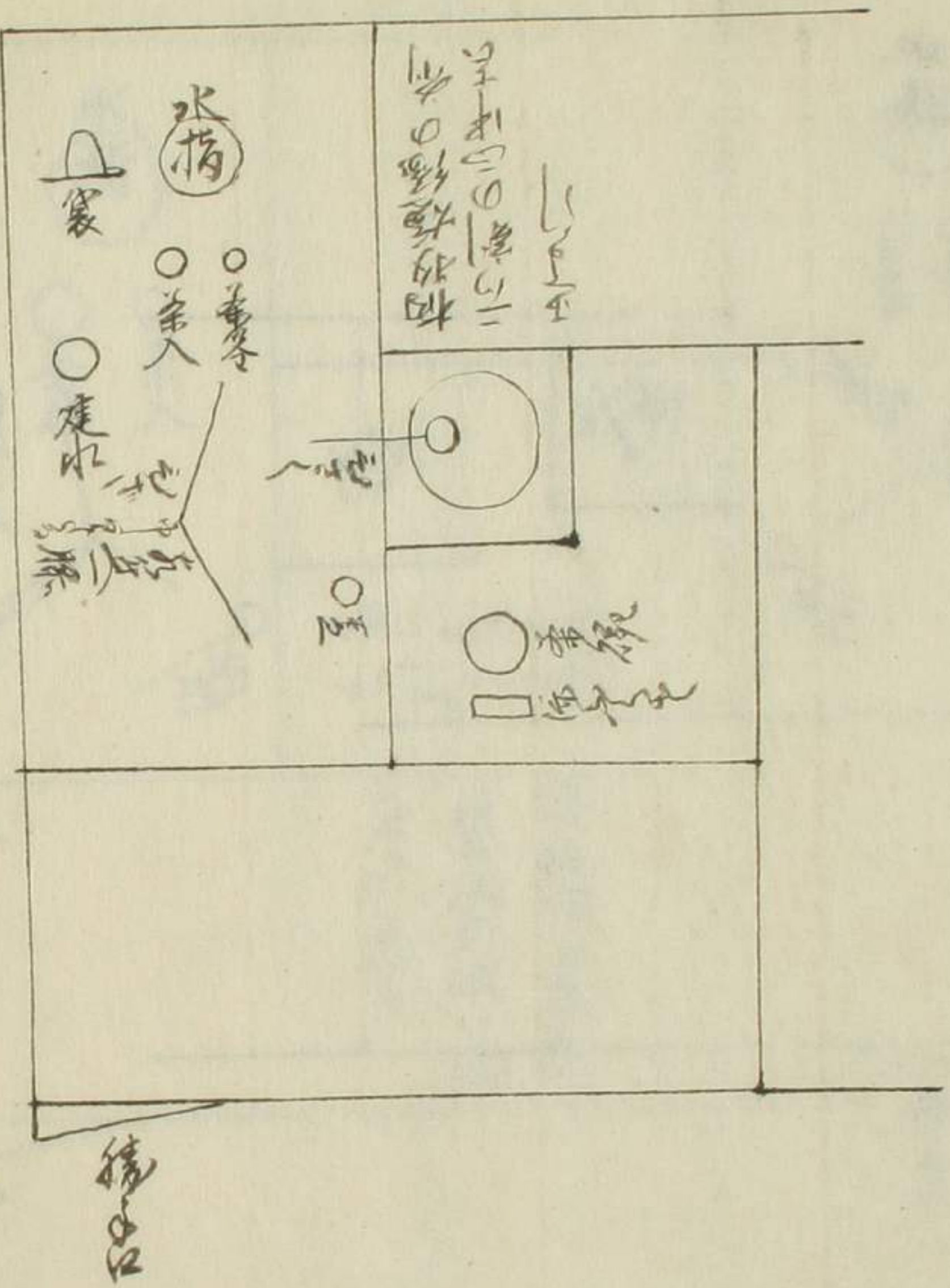
四角中を立之るより前より具配



四角中を立之るより前より具配

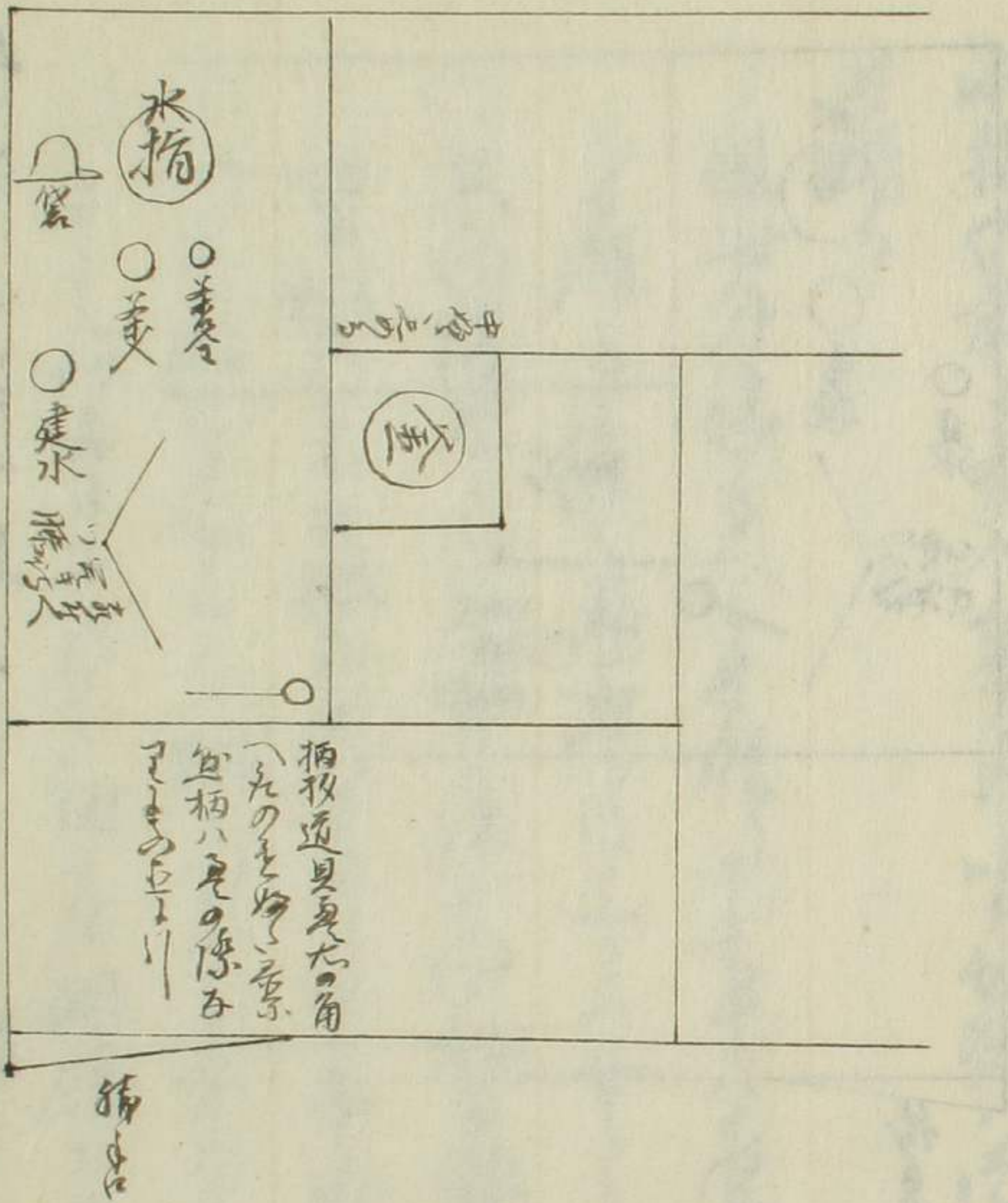


四角半立系碗出〜未中との別時のが記



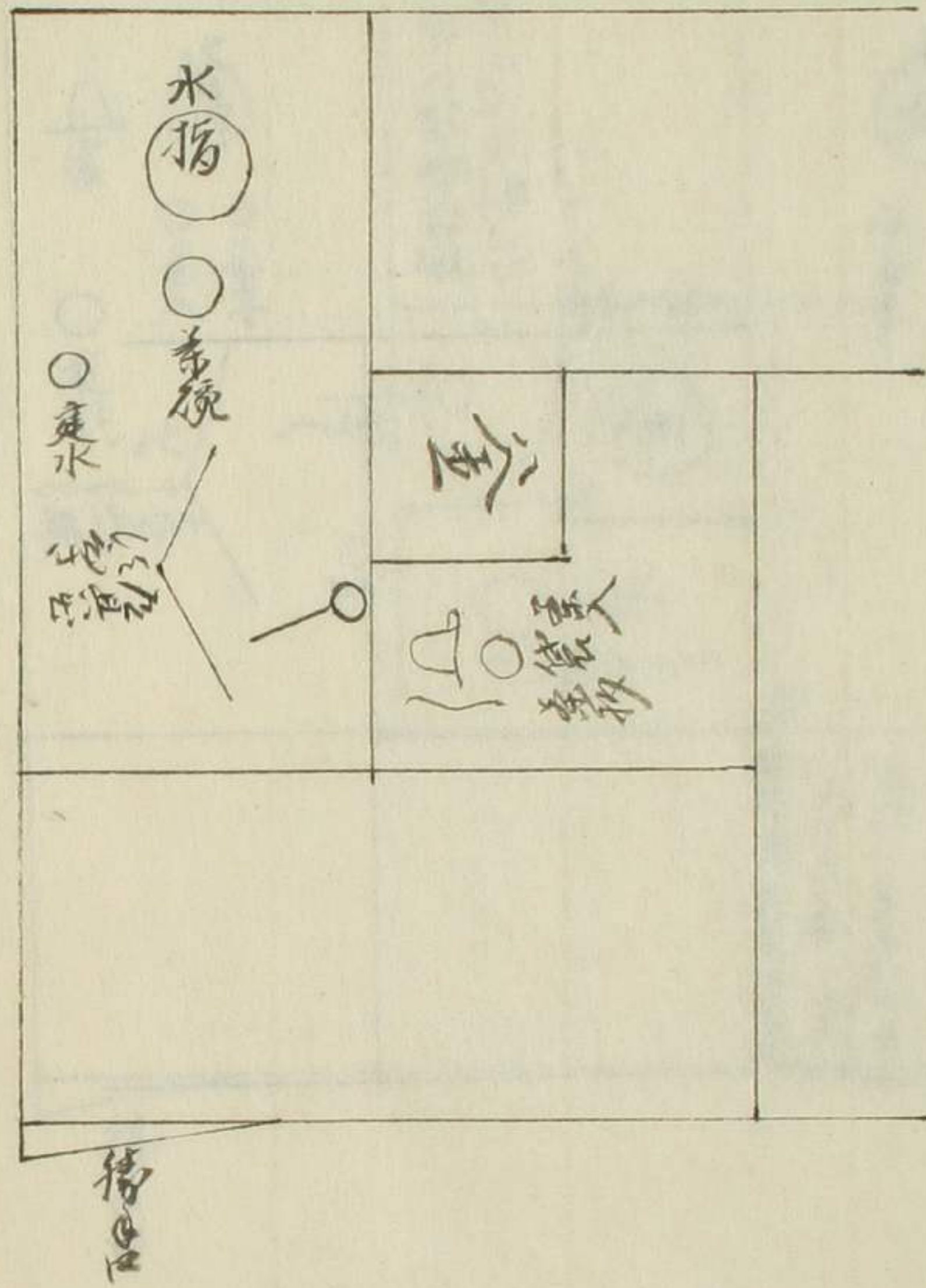
Handwritten vertical text on the left side of the right page, partially obscured by the diagram.

四角半立中蓋志の柄持丸のまてる図



柄持道具是たの角
丸のまてる系
包柄丸の係
まてるより

田舎茶立客入道具出の圖



濃茶も糸向切出糖立

一 水揚の茶も糸入主客の味如職人等を半の心り
竹筒ら

但世并後より世解り事ハ高直水揚の茶は
竹筒らより丹敷より上ハ高直んぬら
又向板をハ流し流の向切も藤子の角ハ二
重板の上の板ハ下より下への板ハ下
一重板有糸も板の上より糸入解り
のしり糸も二枚も初は板解りも時ハ
一膳も明くは茶客の味りも茶客ハ持茶

縁のりたるは、御常物出らば、一室をよめる
曰

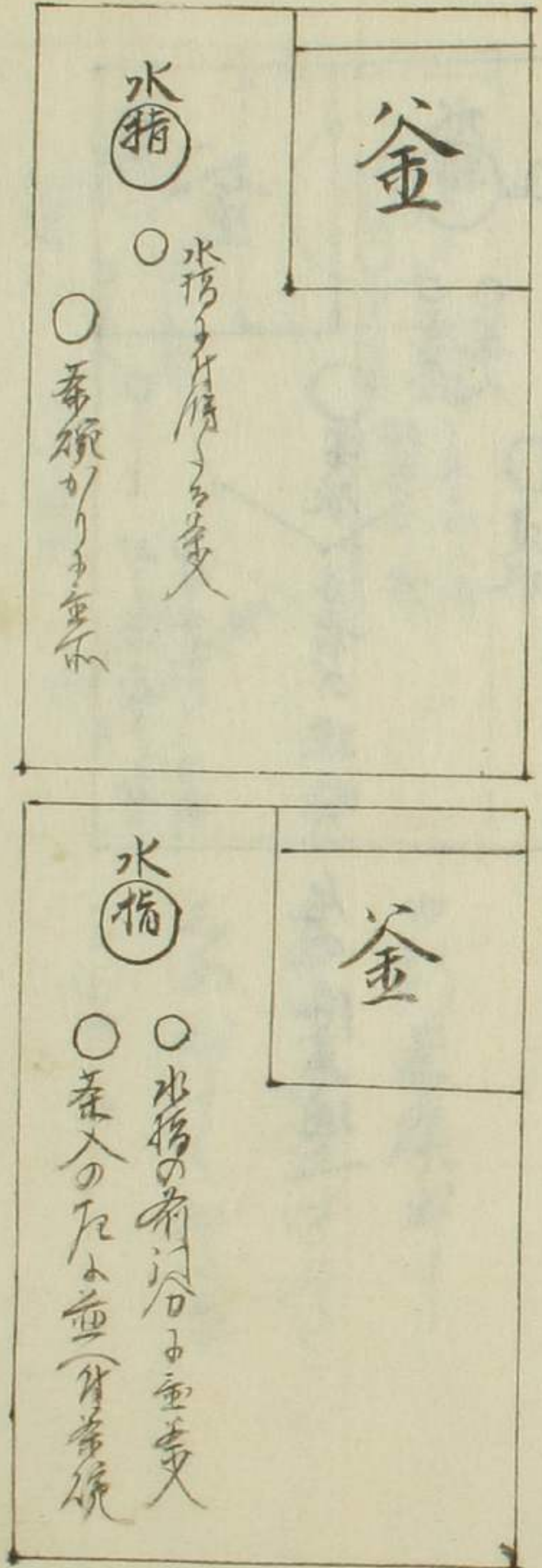
一 水指の付行りたる茶入たるを、丸茶し、お指の茶
引分のたるを、茶室にたす、主身後縁の合入
く、御常物より、挿し建水、茶室、御抄、挿し、
心、茶室、茶室、同

一 蓋茶入の、縁縁の、川割の、たる、角、向、たる、
明と、合、角、方、の、御、主、方、を、茶、し、
御、抄、の、主、方、を、御、抄、の、主、方、に、
一 主、方、を、主、方、の、角、の、縁、縁、の、方、を、通、す

元原

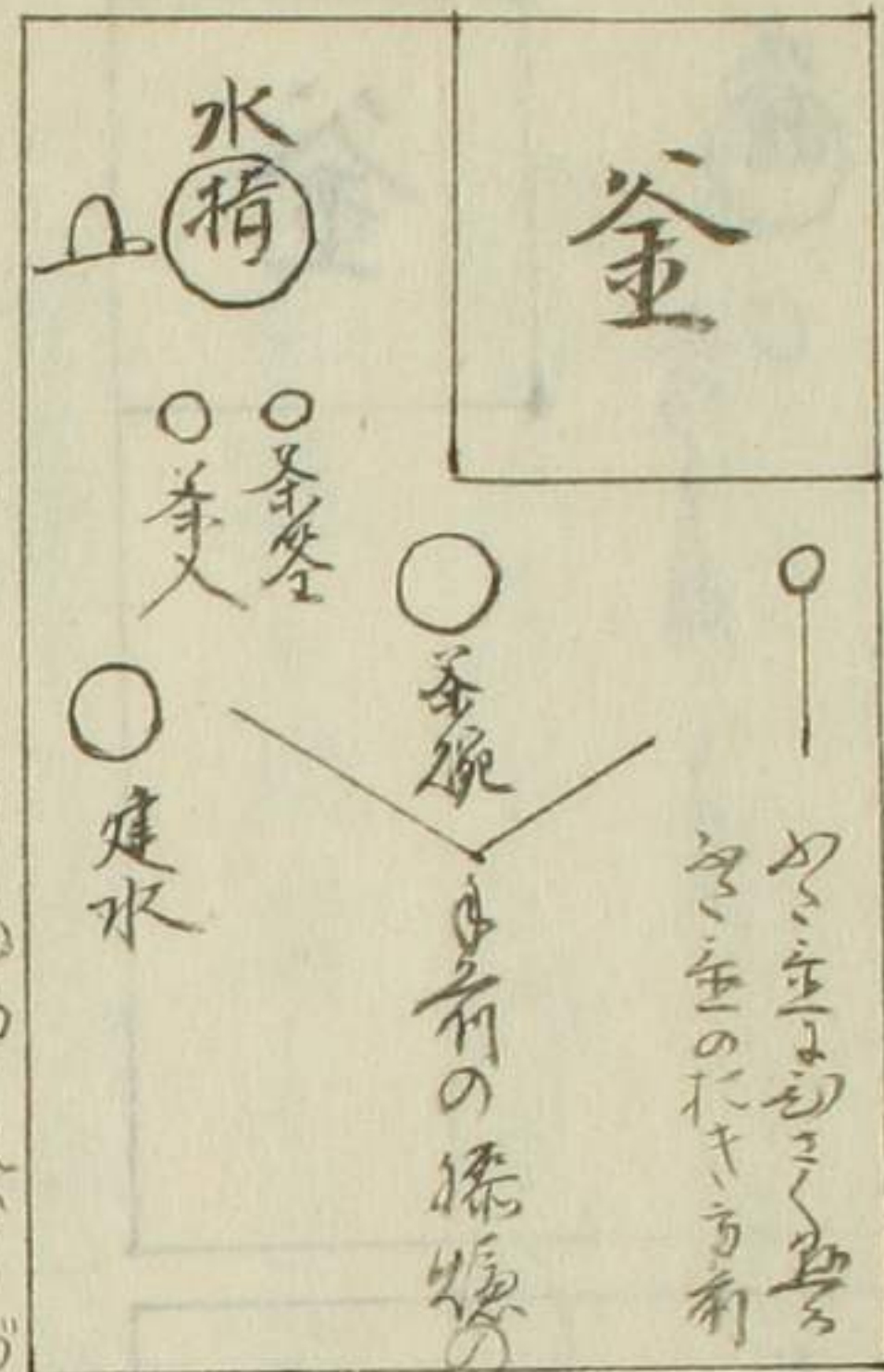
一 茶入、茶入、出、茶入、表、上、底、を、向、す、
お、指、の、縁、の、方、を、た、す、上、向、す、
但、角、の、茶、入、御、抄、の、主、方、
中、標、減、表、を、上、底、を、向、す、
一 御、抄、を、御、抄、の、茶、入、の、縁、縁、二、川、割、を、
お、指、の、

右、お、指、の、茶、入、の、
圖、と、え、る、に、



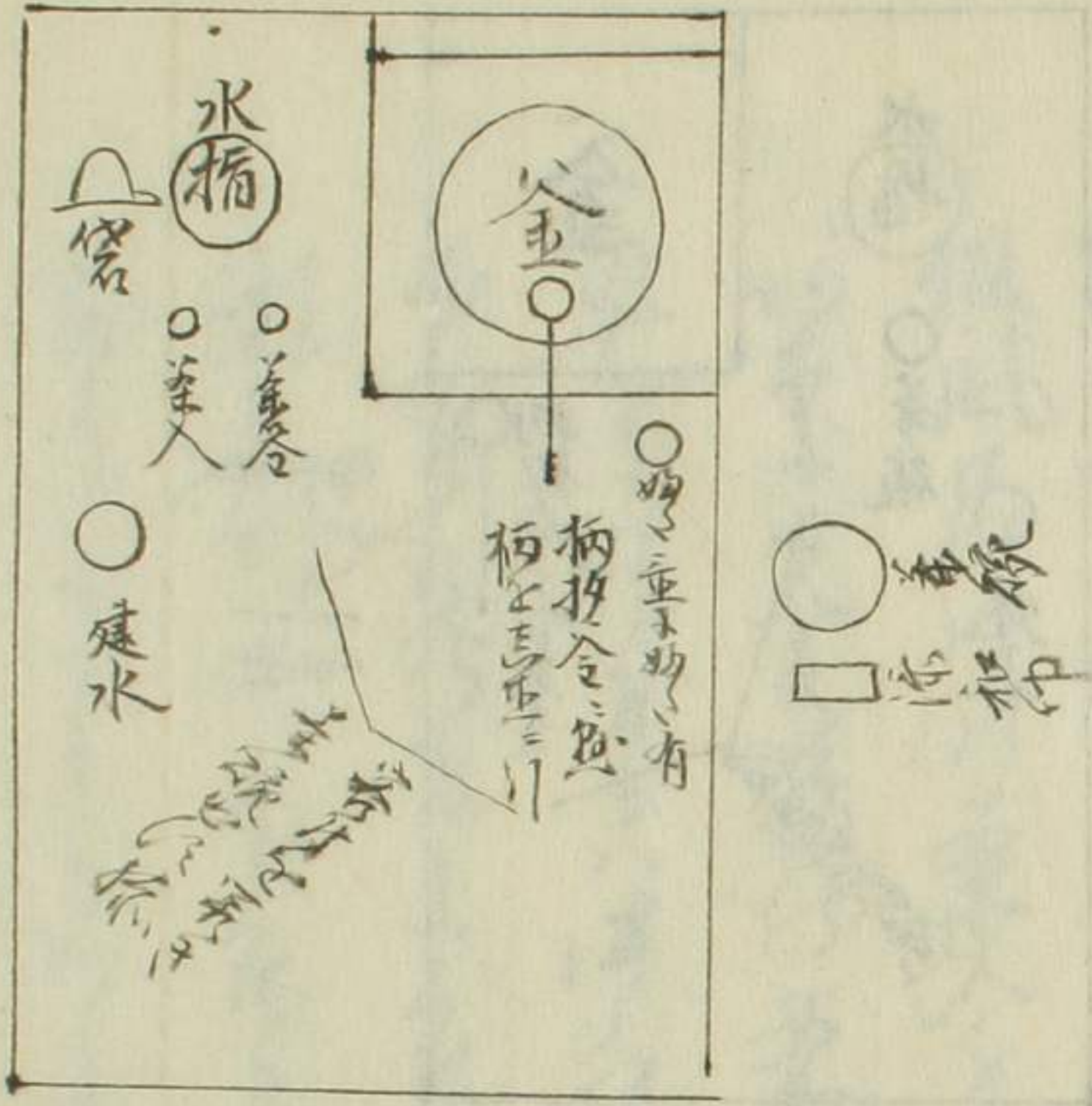
白切切煙道具膳付の釜

向切出糖身前中端道具部の圖



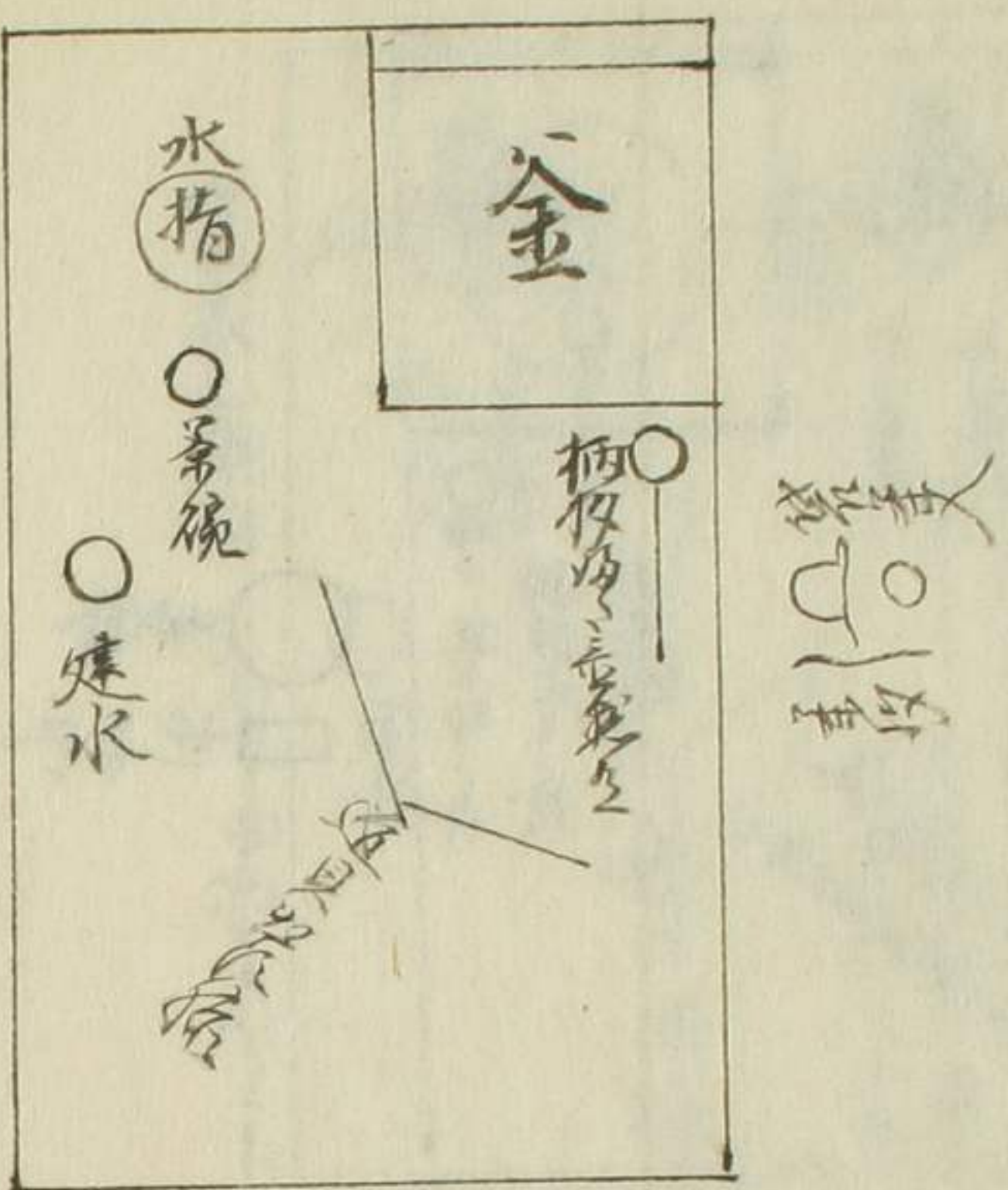
袋表上底向 上り 曲物をいかにこらめず

向切出糖身立系統部の專出図



此の糖身立系統部
直下は釜の中身
をあらわすので、
まわりの

向切出煙客（道具の一）の圖



濃茶の味を好む者には此の道具は

一少板のたの味を好む者には此の道具は
 但風呂は付茶碗を併せ用ひし事上は中茶少板
 の茶碗の柄は茶碗の口より上を以て少板の柄
 早くと用ひし事上は少板の柄は茶碗の口より上
 少板の柄は茶碗の口より上を以て中茶と古
 茶碗の柄は茶碗の口より上を以て茶碗の柄と
 茶碗の柄は茶碗の口より上を以て茶碗の柄と
 茶碗の柄は茶碗の口より上を以て茶碗の柄と
 茶碗の柄は茶碗の口より上を以て茶碗の柄と
 茶碗の柄は茶碗の口より上を以て茶碗の柄と
 茶碗の柄は茶碗の口より上を以て茶碗の柄と

相違なきことび葉の湯より一りりるる葉を察せり
六相をきくも宜し

一 臨心は月夜葉よりなること葉を察せたる物出たハ
まゝなり

一 風呂の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり
一 湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり
一 湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり
一 湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり

一 湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり

湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり
湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり
湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり
湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり
湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり
湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり
湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり

一 湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり
湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり
湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり
湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり
湯の湯より一りりるる葉を察せたる物出たハ
まゝなり

一 主定元子着るの風呂の太の端、少板は太の端を
為元子、少板

但少板より風呂の太の端、太の端より風呂の太の
端まで通すより、少板の太の端より風呂の太の
少板は太の端より通すより、何れも太の端より
為元子、少板

但元子、少板の太の端、少板の太の端より風呂の太の
少板の太の端より通すより、何れも太の端より
為元子、少板

太の端より太の端へ、太の端より太の端へ
少板の太の端より太の端へ、太の端より太の端へ
為元子、少板

一 元子、少板の太の端、太の端より太の端へ
太の端より太の端へ、太の端より太の端へ
少板の太の端より太の端へ、太の端より太の端へ
為元子、少板

但元子の太の端、太の端より太の端へ、太の端より太の端へ

竹のりしき 吾竹人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞
けり 斗を 吾竹 人んきし 臨と 瑞と 柳枝 是は 六
てらを 吾竹 人んきし 柳枝 也

一 藤 結 也 一 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞
ゆき 口は 吾竹 人んきし 柳枝 也 一 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞
たを 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞
海 一 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞
入の 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞
若く 一 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞

吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞
き 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞

但し 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞
主 一 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞
也 一 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞

一 藤 結 右 也 一 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞
向ふ 一 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞
たを 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞
大 吾竹 人んきし 為之 柳枝 是は 新 瑞

葉市と並置して一と一を連して少極の...
葉市に込められた...
少極少極とぬき葉市を...

一 一と一を...
たよたよと...

但葉市...
...

一 は...
大目...

一 正...
...

但...
大目...

一 正...
...

一 ...
...

世青磁...
湯

すゝめ斗のゝ大目之此部

一 青磁深付の華瓶お茶の器を長考すゝめ

ちびりゝゝ大目之此部清まゝの也

しゝり

一 掛入すゝめ六又湯が汲入りゝゝ

心算の切りゝゝ

一 茶碗をゝゝ大目之此部

大目之此部

但し此部の口若くは撥り

しゝり

一 江戸古茶碗をゝゝ大目之此部

茶碗を華瓶におて

一 正若之は

茶碗を

茶碗を

茶碗を

也

他は

切り

切り

奉入至りと管身入也——大正坊主人引と膝元
向し取らるる也——
是なり也——

一 道具操也水坊を指入湯のり也

但此振動は任意同位を至極の時迄具操
の仕方より取らるる也

一 客道り大見は皆く時々一日を至存管よりして終局
はハカ希程を結送り夫操の——事——自らの如く
暫くのり也——

但此は風を入口水坊至るまでよく流すなり也

是を為すに——想那也——
水作らるる
川上より所より——

一 一夜より一ヶ月の極暑を以てして
る意を以て此器を以てして一極暑を以てして
くり用ひては年が用ひては決むるは皆
一 此器の冷熱を以てして火氣を以てして
交を以てして器を以てして——
残りの後——
人の風を以てして——
は——

心持遠く月ひくはさき月より
 白雲の向く次を柳を能く考へて
 初八の夕へて福の舟より六の舟より
 舟より舟の舟より六の舟より舟の舟より
 とて舟の舟より舟の舟より舟の舟より
 舟の舟より舟の舟より舟の舟より

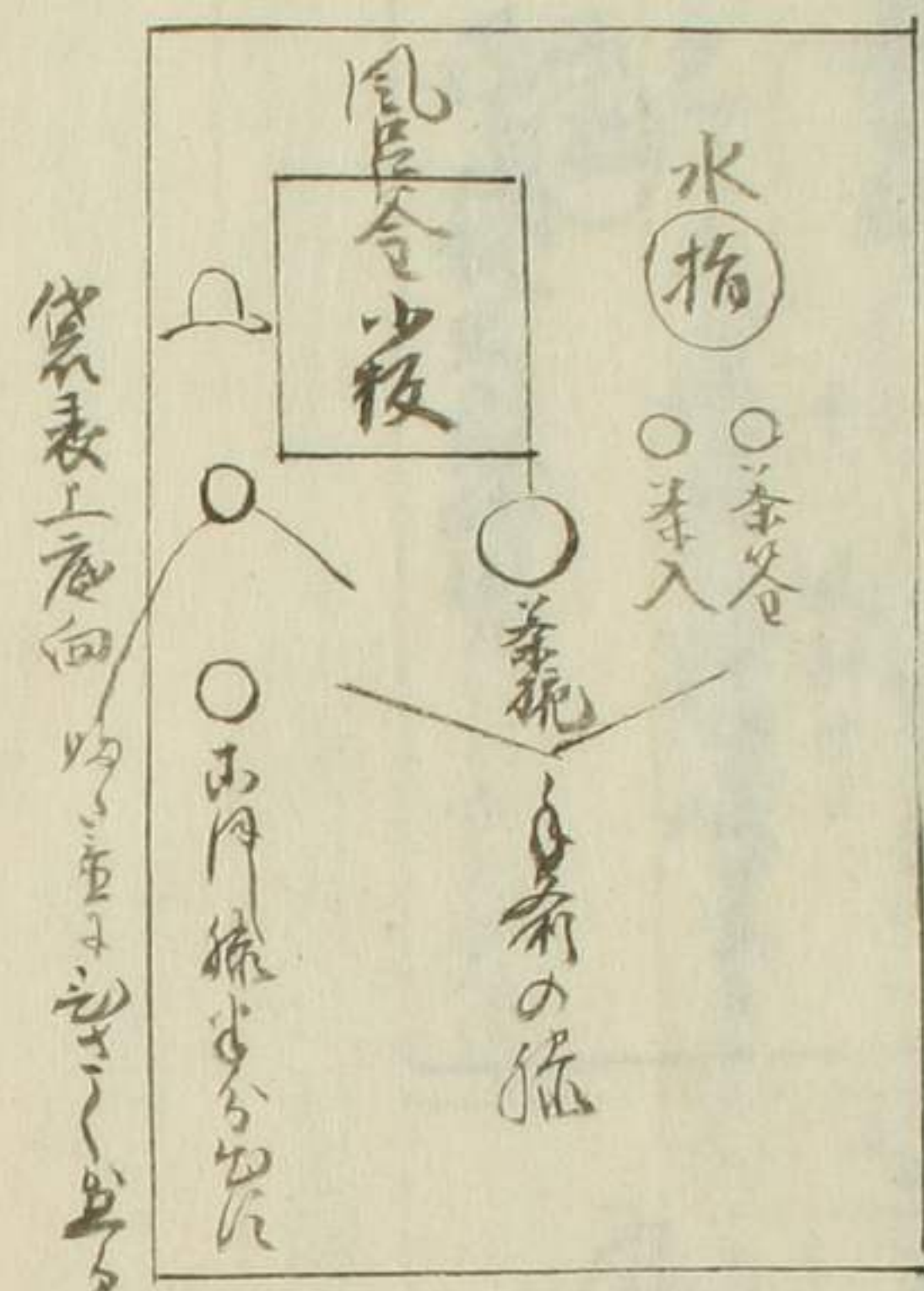
濃茶風呂の道具借換の法

風呂の道具借換の法
 水指 ○茶入の先少板の茶通
 茶一匙借換

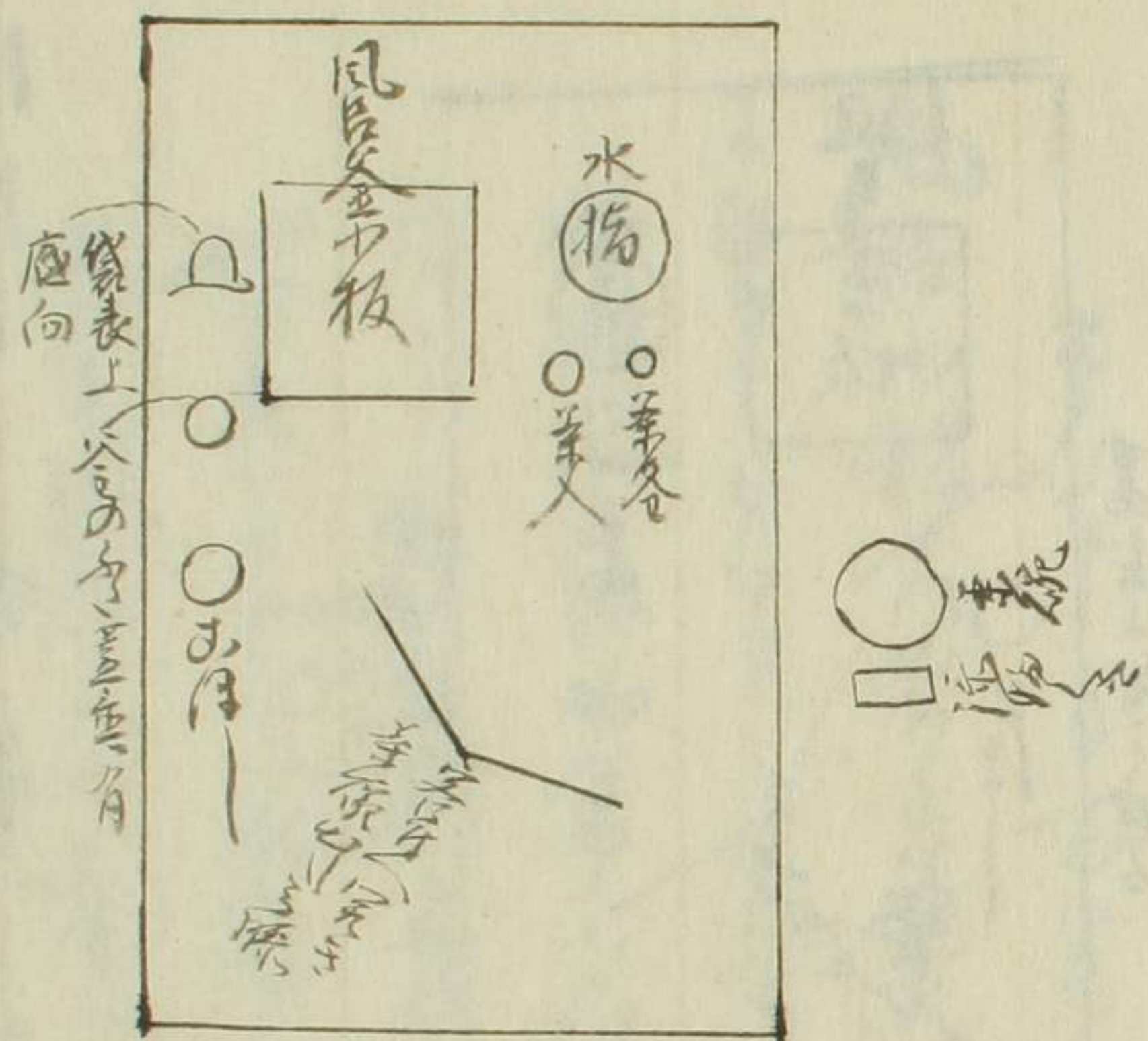
風呂の道具借換の法
 水指 ○茶入
 茶碗 水指の茶通

茶入の先少板の茶通
 茶一匙借換

同風呂子前小急小急

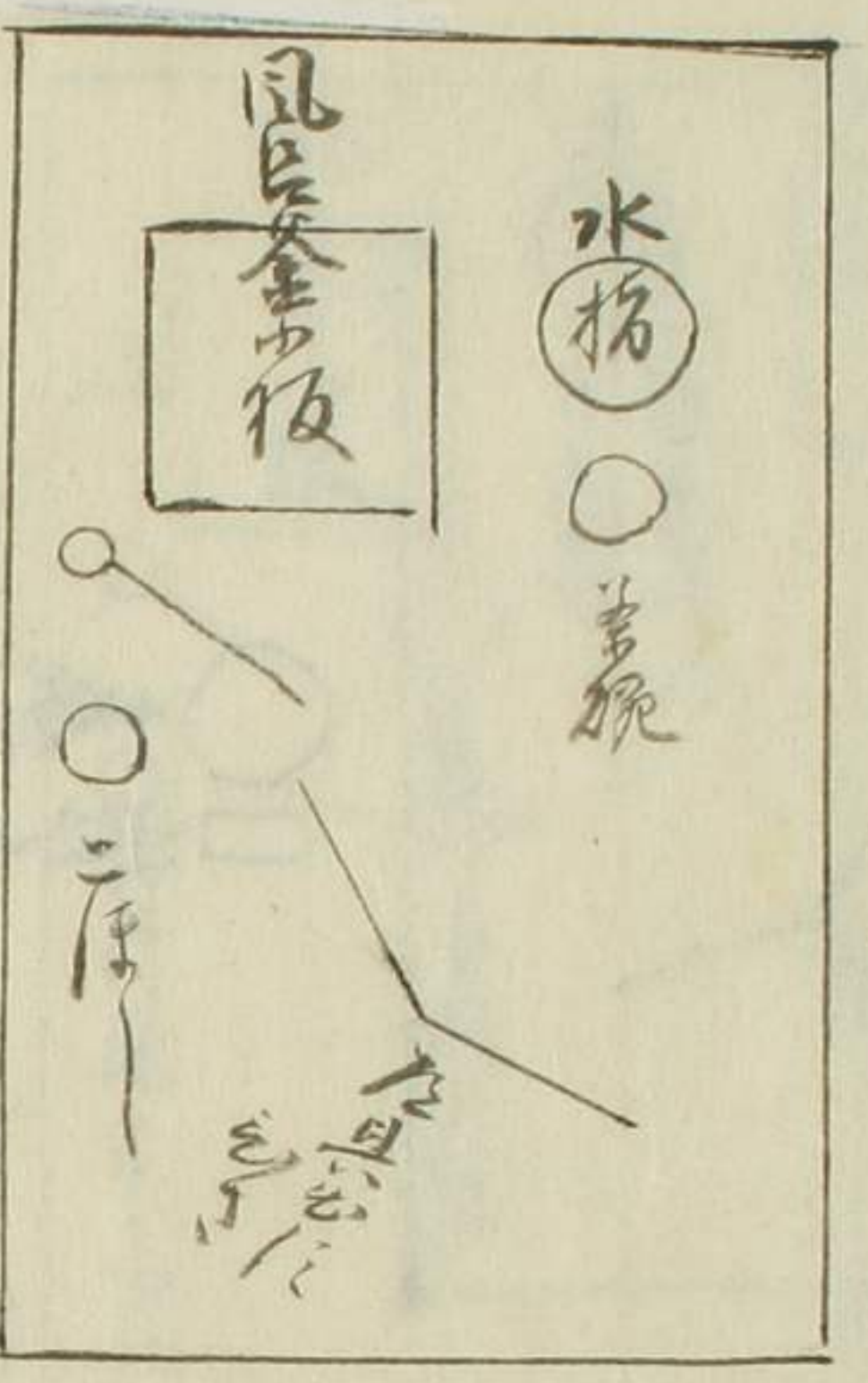


同風呂子前茶立客茶碗出図



回風呂子前管一返具四波若

美新



美新はさきく廻る

回風呂子前管一返具四波若

風呂形茶心茶

但形茶振席一付は口名と種は美新和布と

まひの古茶や新茶の毒けしと也

一 風呂形茶心茶入膳は美新茶心茶

と形はさきく廻る

但此風呂は常少板と茶心茶と一返具と

び云はさきく廻るは美新和布と

地茶心茶と茶心茶板は美新和布と

又此風呂の耐暑は美新和布の外重板の水指と

風呂形茶心茶入膳は美新茶心茶

至在風多のとき
手の中を流るる水
之ハ流るる水
ハ風多とゆふ時
少極るる水
少極るる水

又重風多のときハ
の時ハ捕物ハ水多
流るる水ハ風多
いハ少極るる水
くつハ少極るる水
合風多ハ少極るる水
ハ少極るる水
ハ少極るる水
ハ少極るる水

一 葉巻ハ少極るる水ハ少極るる水

一 葉巻ハ少極るる水ハ少極るる水
ハ少極るる水ハ少極るる水
ハ少極るる水ハ少極るる水
ハ少極るる水ハ少極るる水

一 葉巻ハ少極るる水ハ少極るる水

但ハ少極るる水ハ少極るる水
ハ少極るる水ハ少極るる水
ハ少極るる水ハ少極るる水
ハ少極るる水ハ少極るる水

一 葉巻ハ少極るる水ハ少極るる水

濃茶の氣味の心得

但効力の心得を以て著す記法

一 茶の味は物の老を懐懐する由くても或は傷ハ
衣法種ハ十法信ハ麻糸ハ何れかハ以て成其味
多之と裏付茶の履すを必高ら一可也

但し此之を以て茶の味陽の時に乃其味
味冷物のかわり一此ゆをを茶の味成其味
第一局を以て茶の味一此ゆをを茶の味成其味
入法ゆをを茶の味一此ゆをを茶の味成其味
一此ゆをを茶の味一此ゆをを茶の味成其味

然るも一歩一歩ゆをを茶の味成其味
物ゆをを茶の味一此ゆをを茶の味成其味
一此ゆをを茶の味一此ゆをを茶の味成其味
茶の味成其味一此ゆをを茶の味成其味
茶の味成其味一此ゆをを茶の味成其味
ゆをを茶の味成其味一此ゆをを茶の味成其味
中ゆをを茶の味成其味一此ゆをを茶の味成其味
へい

又此茶の味成其味一此ゆをを茶の味成其味
茶の味成其味一此ゆをを茶の味成其味

付あしうきさうきと心懐中しうきさ
苦し過と曰くしうきさ紅くわん
玉をさしほち持てまじやまじ
よそをえ供へたの苦み分偏の
ももらもたをわんく親切なる
に傷りうてせむらにわんく
え名をたう

一 苦道成物ありし別傳名ありおまを
名はし

但書はしうきさの勝りあり

をいふなり

一 客方門の人のしうきさありし
客方門の人のしうきさありし
客方門の人のしうきさありし

世に世にありししうきさを
てんああり

一 しうきさありししうきさありし
しうきさありししうきさありし
しうきさありししうきさありし
しうきさありししうきさありし
しうきさありししうきさありし

りうてとて先物買物又考をしゆる
なりしとて生きたるに接する遊の
名はししとて然るに候はしとて極子
なりしとて入座し候はしとて先物の
上はたのふまゝとて一筆流るも乞ふらし
一申すに入付路次の後在揚除ふまゝ乳を
付立のふまゝとて入座し
先物買物白じ申すに候はしとて極子
を主申しとて白じを相心静しとて
見せ給ふに又一筆流るも乞ふらし

但申しとて上二枚障子申しとて申すこれ
は多しゆり申すこれの申すは物
后の申すは折行を障子申す
自は申す障子申す一筆流るも
又入障子申す此は申す一筆流るも
下は申す入付すこれとて申す
子いしとて申す
又極子の席一筆流るも
是とて申す申すに候はしとて極子
入るを申す也

一 床より白い紙物とせん及具をとり以て相の傍に全
りしきくといふに在り着

但床より白い紙物とせん及具をとり以て相の傍に全
りしきくといふに在り着

又風呂の付いた板も深と作り或は火箸
と作り或は鉛材多きを作り半有まよ
氣を付風呂の時便なしく心をはかせるもの
まらりと見ゆ

又とせん床下に床下りりといふにせんとの様板
床下り初るは流し入せるものなるもの有り
心をはかしくしるすなり

又道床の下の床下りりといふにせんとの様板
床下り初るは流し入せるものなるもの有り
心をはかしくしるすなり

又相より床下りりといふにせんとの様板
床下り初るは流し入せるものなるもの有り
心をはかしくしるすなり

又ハ昔々子ト云ヒ名居アリテ接収仕テ有
レテハ別テ事トシテ記シテトクニ
トモナクハ

想ル迄具降見ノ一高キ事トシテ早キ事
ハトクニ見セラル

一 互々トシテ終ル所トシテ事ハ世世トシテ
美ト仲決ノ路決ルノ風氣揚降ル丁宜決
一 秘ノ性也トシテ楠皮子名支物名ノ書ヲ歌
毒ハ大ノ名者トシテ美トシテ接収致一トク
ハ事ハ昔々信傳ル所トシテ

但互接スル一孔接好ト云ヒテ夫ニ接収
トク名心秘トシテ接収トシテ一トクノ書ハ何
トシテ事ハ昔々信傳ル所トシテ

一 主見ル所トシテ金と何を接スル所トシテ
越道何所トシテ金と何を接スル所トシテ
但互々トシテ金と何を接スル所トシテ又
仁也金とシテ事トシテ何接スル所トシテ
善トシテ一トクノ金と何を接スル所トシテ
存一トクノ金と何を接スル所トシテ
一 互々トシテ事トシテ何接スル所トシテ

他少なき事より一書取也一勝の宜く心
香のれりる心成り一なる心成り接接一と事
是し一書と書成り一

一 倉り席事少なり一其席中三の付又席の心
也と見又五と見と事一

但今席中三の付勝の付成り一と事
きしと知り一付成り一勝の付成り一
是倉り席の事一其席中三の付又席の心
一石角席の勝の付成り一其席中三の付
と有る者一知り一

又少なき人ハ事少なき事一其心勝の付成り
也一其席中三の付又席の心

一 中三後勝の付成り一其席中三の付又席の心
と事一其席中三の付又席の心
但今席中三の付勝の付成り一其席中三の付
も事一其席中三の付又席の心
眞勝の付成り一其席中三の付又席の心
何れ入る一其席中三の付又席の心
其席中三の付又席の心
一其席中三の付又席の心

一 部より音を写し置るおき（投授）し之に
入る水きしめ物たし之投授る入共
み向ひ花をえ道果るこの傳へて
但下在のへてし傳授の標を
若くは投授る入る

又向ひ環銅鏡の如くせしむる
物たし向ひてしと投授る
又盟者湯桶をさし主が御見合て
入る湯桶をさし主が投授る
又道果る相多し物たし

又山付麻の在るを花を
入る向ひてし投授る
一 葉は花をさし主が投授る
主一 花をさし主が投授る
乃て主一 花をさし主が投授る
一 花をさし主が投授る
一 花をさし主が投授る

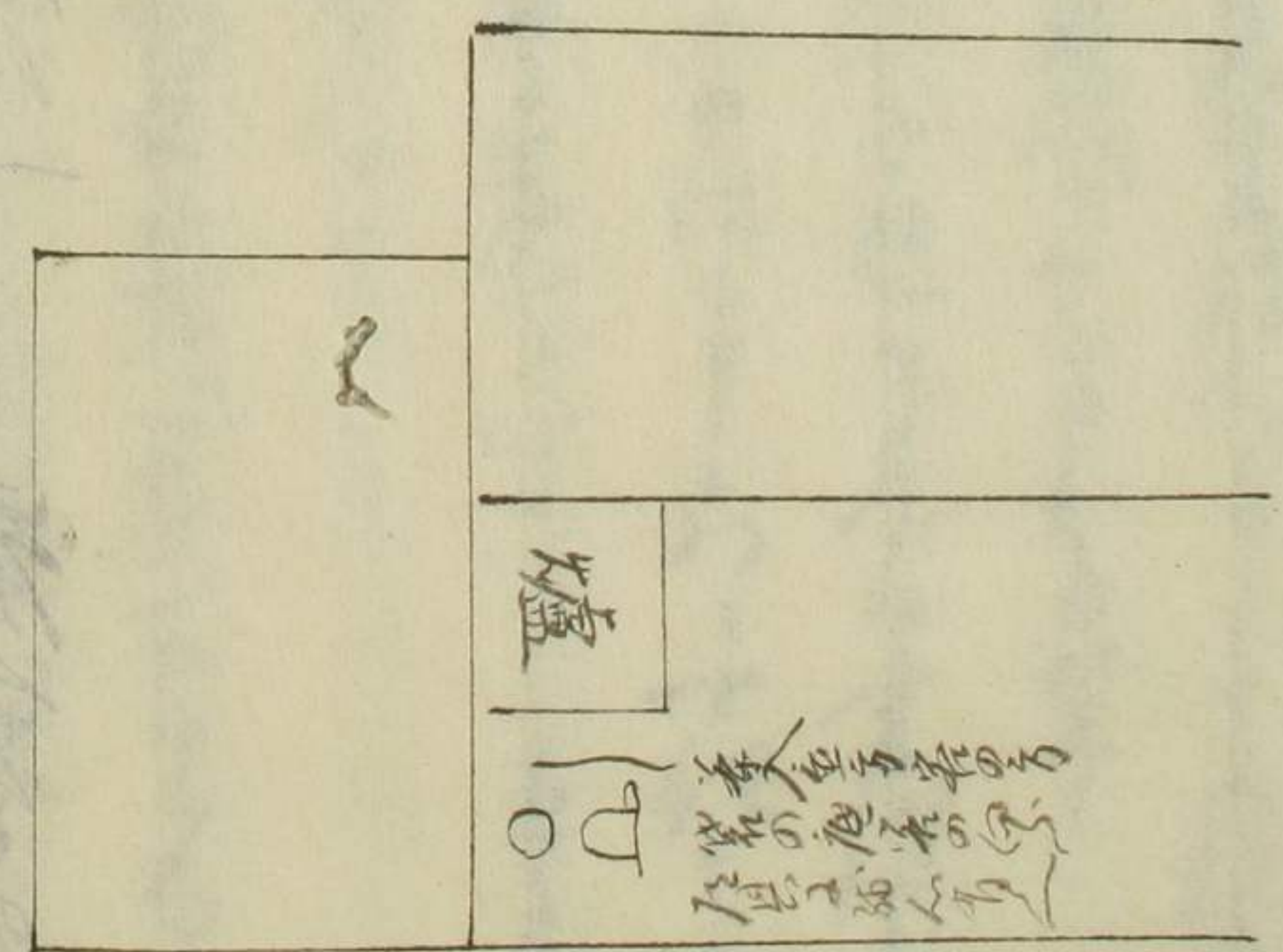
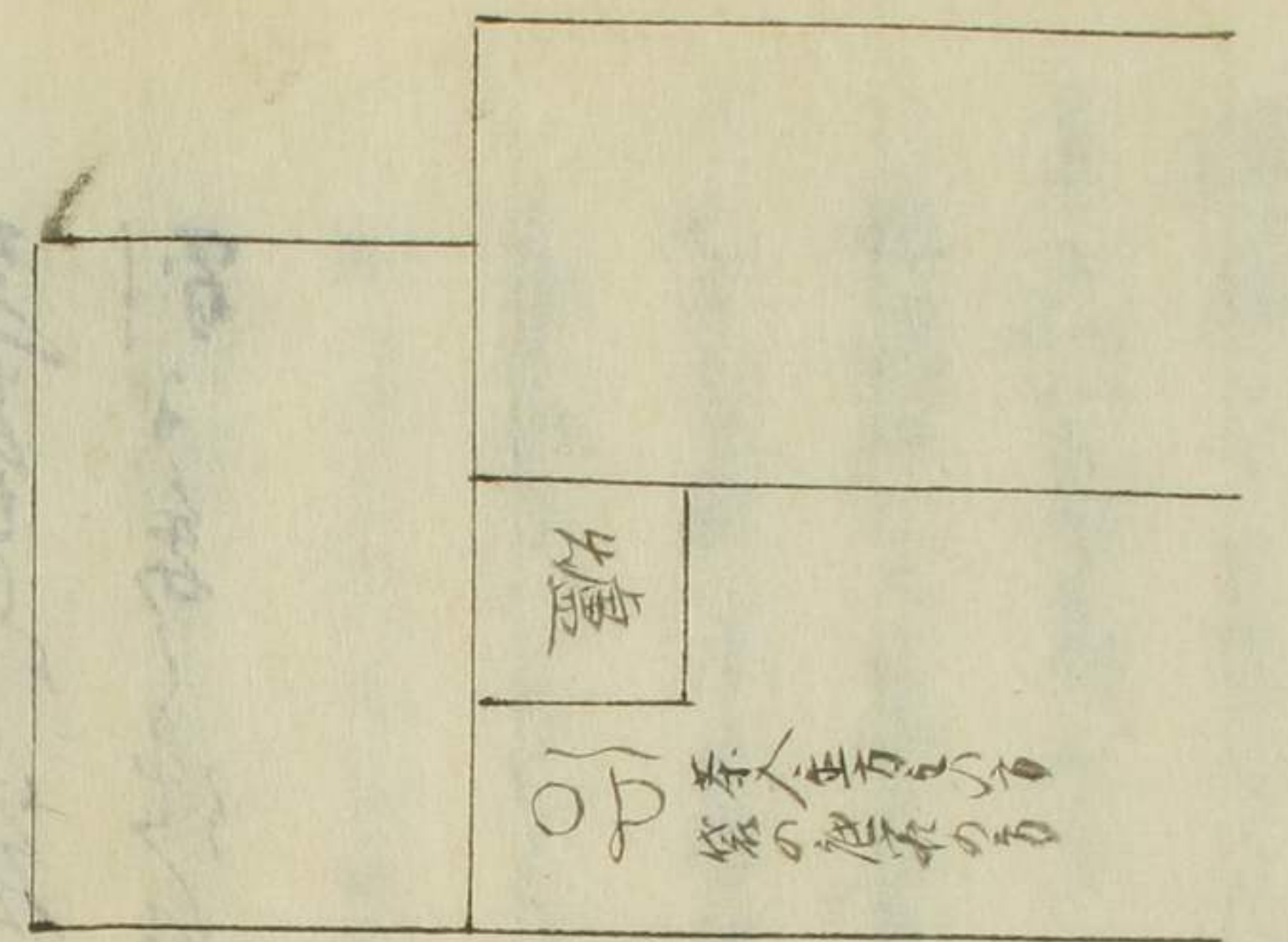
一 主備は向ひてし主が投授る
一 主備は向ひてし主が投授る

一 直道は皆答ふる事なきに水持の事なきに付
 及らざるに直道入信の事抄にもねん信の事
 一 直道具抄に西宮編多の居るの事又其信の
 事抄にも見るに決り信の抄にねん信の事
 方乃中道より其の信の事抄にねん信の事
 洋見の事抄にねん信の事抄にねん信の事
 一 直道は皆答ふる事なきに水持の事なきに付
 又かりく一説にねん信の事抄にねん信の事
 方乃中道より其の信の事抄にねん信の事
 一 直道は皆答ふる事なきに水持の事なきに付
 又かりく一説にねん信の事抄にねん信の事
 方乃中道より其の信の事抄にねん信の事

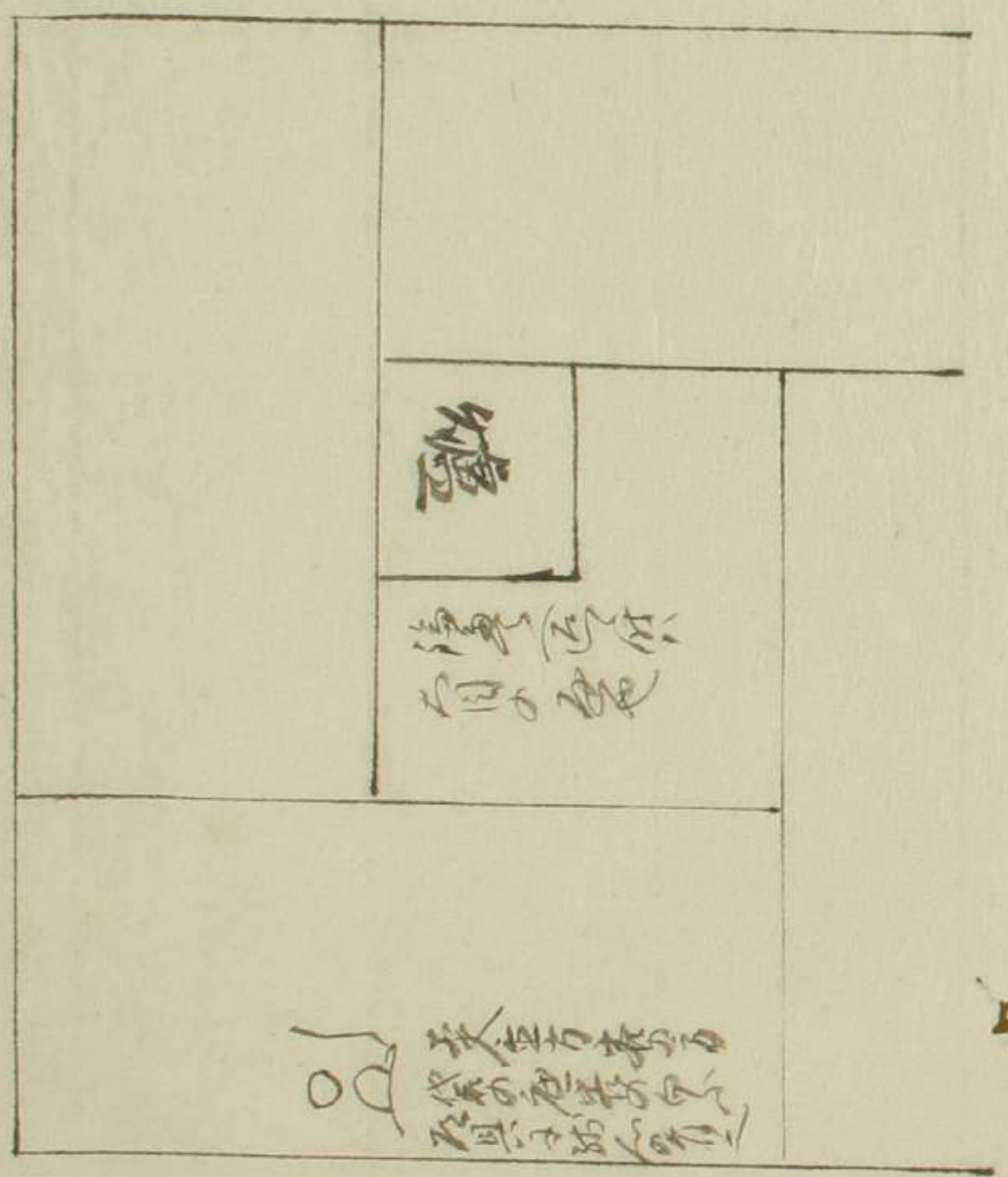
一 直道具名も出来探りて付法ある事一説に
 但直道は皆答ふる事なきに水持の事なきに付
 又かりく一説にねん信の事抄にねん信の事
 方乃中道より其の信の事抄にねん信の事
 一 直道は皆答ふる事なきに水持の事なきに付
 又かりく一説にねん信の事抄にねん信の事
 方乃中道より其の信の事抄にねん信の事

古くからの道具名

けしき名宗風をなすもの



和名を踏むる道具名



Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a list of names, located on the right page of the notebook.

Faint, illegible table or grid structure on the right page, possibly a ledger or record book.

